

(1) 県政への要望

(複数回答:3つまで)

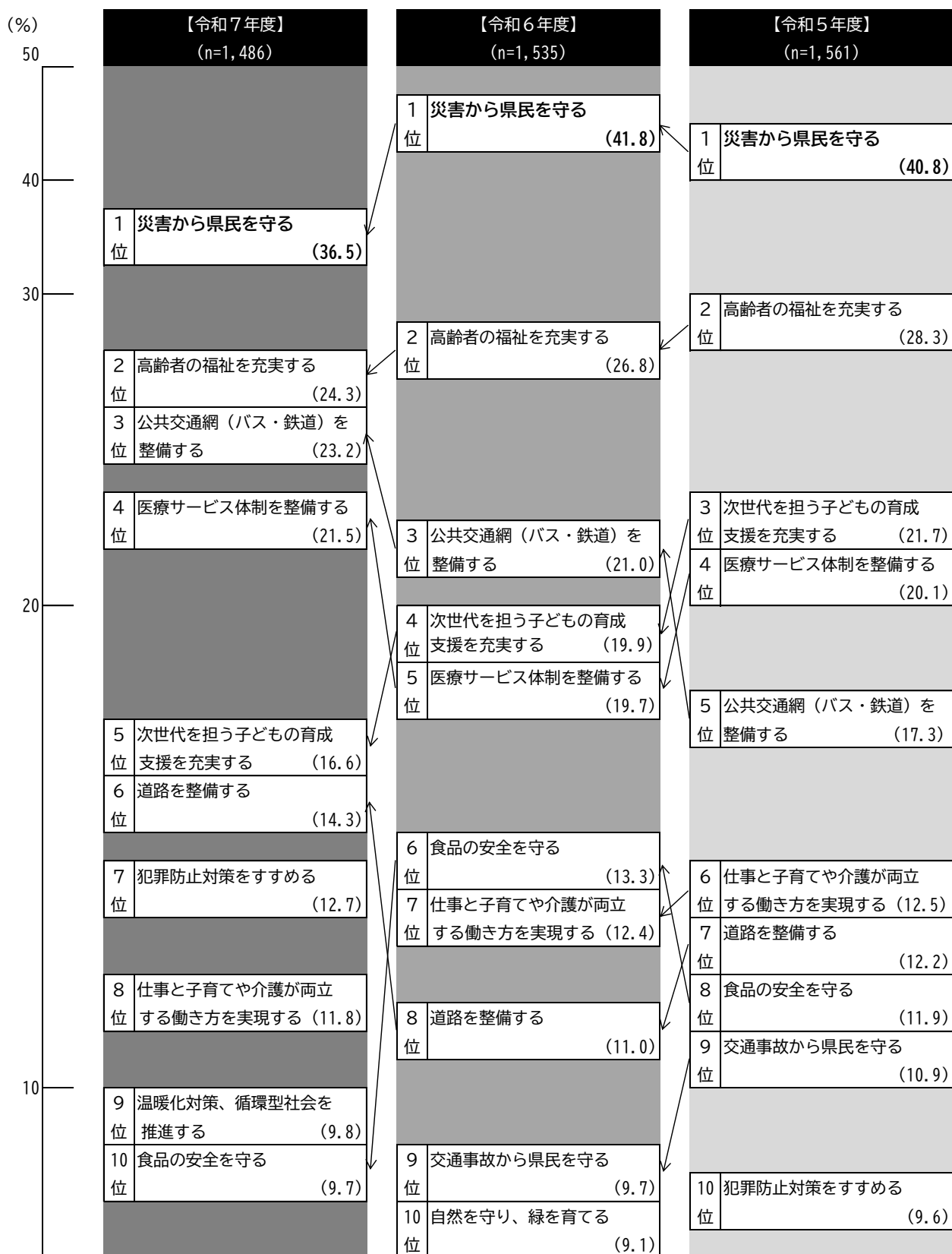
項目	順位	n=1,486					n=1,535		n=1,561	
		0	10	20	30	40	50 (%)	前回 (令和6年度)	前々回 (令和5年度)	
災害から県民を守る	1位					36.5		1位 41.8	1位 40.8	
高齢者の福祉を充実する	2位				24.3			2位 26.8	2位 28.3	
公共交通網（バス・鉄道）を整備する	3位				23.2			3位 21.0	5位 17.3	
医療サービス体制を整備する	4位				21.5			5位 19.7	4位 20.1	
次世代を担う子どもの育成支援を充実する	5位				16.6			4位 19.9	3位 21.7	
道路を整備する	6位				14.3			8位 11.0	7位 12.2	
犯罪防止対策をすすめる	7位				12.7			11位 8.7	10位 9.6	
仕事と子育てや介護が両立する働き方を実現する	8位				11.8			7位 12.4	6位 12.5	
温暖化対策、循環型社会を推進する	9位				9.8			12位 8.3	11位 9.5	
食品の安全を守る	10位				9.7			6位 13.3	8位 11.9	
自然を守り、緑を育てる	11位				9.4			10位 9.1	12位 9.4	
交通事故から県民を守る	12位				8.5			9位 9.7	9位 10.9	
下水道を整備する	13位				7.7			24位 4.2	24位 4.2	
安心して飲める良質な水道水を供給する	14位				7.4			14位 6.6	14位 6.7	
障害のある人の福祉や社会参加の支援を充実する	15位				6.5			15位 6.5	13位 8.1	
学校教育を充実する	16位				5.5			16位 6.3	18位 6.0	
消費生活のトラブルに関する対策をすすめる	17位				5.5			19位 5.1	19位 5.3	
ひとり親家庭等の福祉を充実する	18位				5.0			21位 4.8	16位 6.2	
雇用の場を広げる	19位				4.8			16位 6.3	17位 6.0	
大気汚染、水質汚濁、騒音などの環境対策をすすめる	20位				4.8			18位 5.5	22位 4.4	
健康づくりをすすめて、病気を予防する	21位				4.6			13位 6.7	15位 6.3	
豊かな住生活を実現する	22位				4.2			26位 3.8	28位 3.6	
青少年を健全に育てる	23位				4.0			27位 3.4	25位 4.2	
農林水産業を振興し新鮮な農林水産物を供給する	23位				4.0			22位 4.5	27位 3.7	
廃棄物対策をすすめる	25位				3.6			28位 3.1	26位 3.9	
中心市街地の活性化を推進する	26位				3.2			20位 4.8	20位 4.9	
商工業を振興し、地域経済の担い手を育成する	27位				3.0			28位 3.1	29位 2.9	
公園・緑地を整備する	28位				3.0			23位 4.2	21位 4.5	
観光を振興する	29位				2.4			25位 4.1	22位 4.4	
国際交流・協力や外国人県民との共生をすすめる	30位				2.2			31位 2.3	32位 2.1	
芸術・文化活動を振興する	30位				2.2			30位 2.6	30位 2.8	
スポーツを振興する	32位				2.0			32位 1.6	31位 2.6	
施策実現や地域活性化のためにDX(*)を推進する	33位				1.5			35位 1.0	33位 1.5	
地域課題解決に向けた市民活動や協働の取組を推進する	34位				1.4			34位 1.3	35位 1.4	
男女共同参画を推進する	35位				1.3			32位 1.6	33位 1.5	
その他					3.5			2.1	2.0	
要望はない					1.4			1.2	1.2	
無回答					1.1			0.7	0.7	

(注) 「スポーツを振興する」は令和6年度では「生涯学習・スポーツ・レクリエーションを振興する」

(*) DX=デジタルトランスフォーメーション

- 「災害から県民を守る」は平成23年度から1位となっており、2位以下に比べて高い傾向が続いている。
- 令和6年度に比べ、2位の「高齢者の福祉を充実する」と3位の「公共交通網（バス・鉄道）を整備する」に変動はないが、4位の「医療サービス体制を整備する」は5位から順位を上げ、5位の「次世代を担う子どもの育成支援を充実する」は4位から順位を下げている。

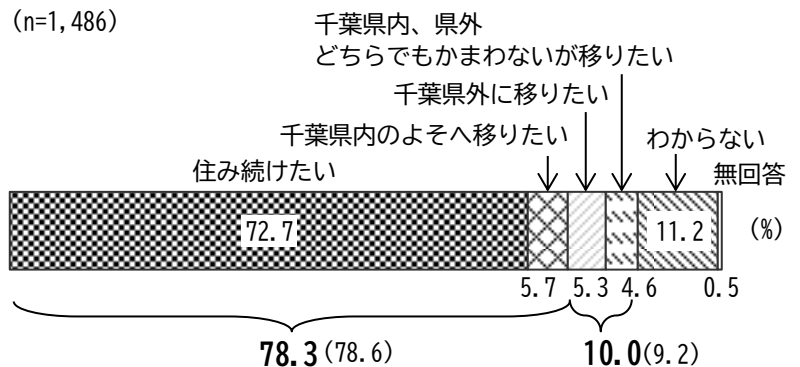
■県政への要望／上位10項目の推移



(1) 今後の居住意向

現在お住まいの地域の今後の居住意向を聞いたところ、「住み続けたい」(72.7%)が7割を超え、これと「千葉県内のよそへ移りたい」(5.7%)を合わせた『千葉県内に住み続けたい(計)』(78.3%)が約8割となっている。

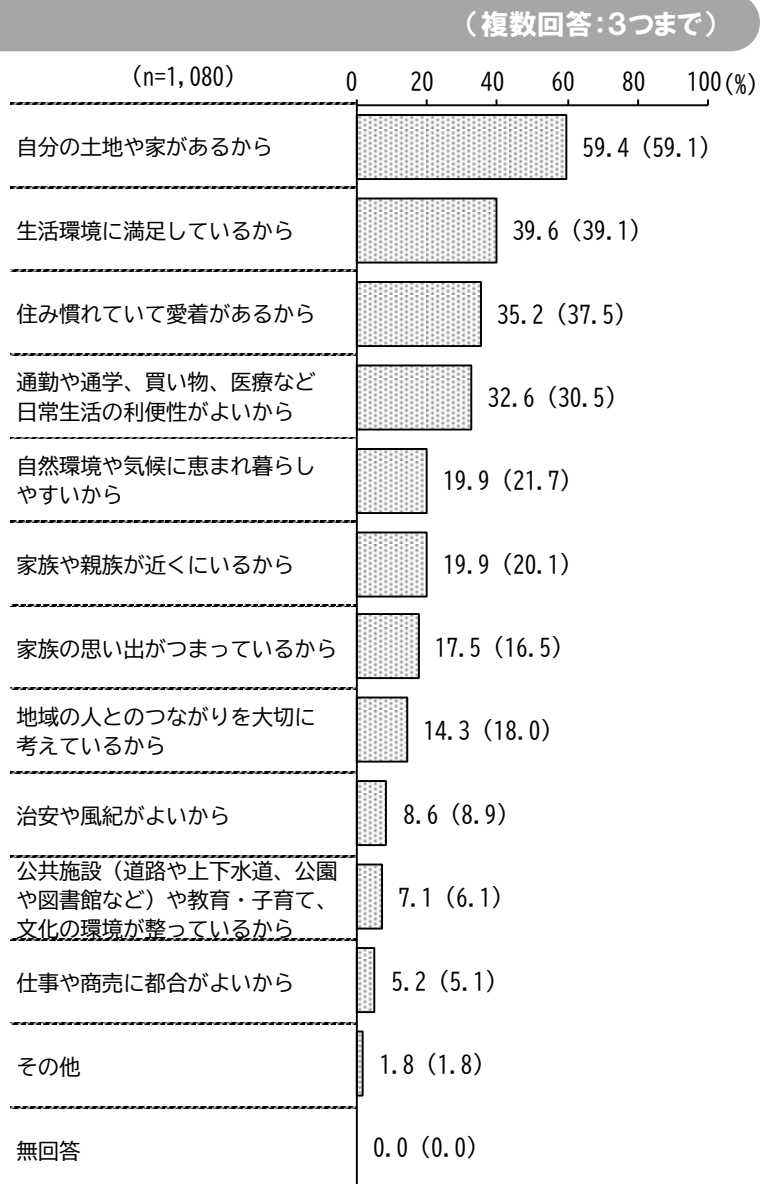
一方、「千葉県外に移りたい」(5.3%)と「千葉県内、県外どちらでもかまわないが移りたい」(4.6%)を合わせた『移りたい(計)』(10.0%)が1割となっている。



注) () 書きは、令和6年度の調査結果を示している。

(1-1) 住み続けたい理由

「住み続けたい」と回答した1,080人を対象に、住み続けたい理由を聞いたところ、「自分の土地や家があるから」(59.4%)が約6割で最も高く、以下、「生活環境に満足しているから」(39.6%)、「住み慣れていて愛着があるから」(35.2%)、「通勤や通学、買い物、医療など日常生活の利便性がよいから」(32.6%)が続く。

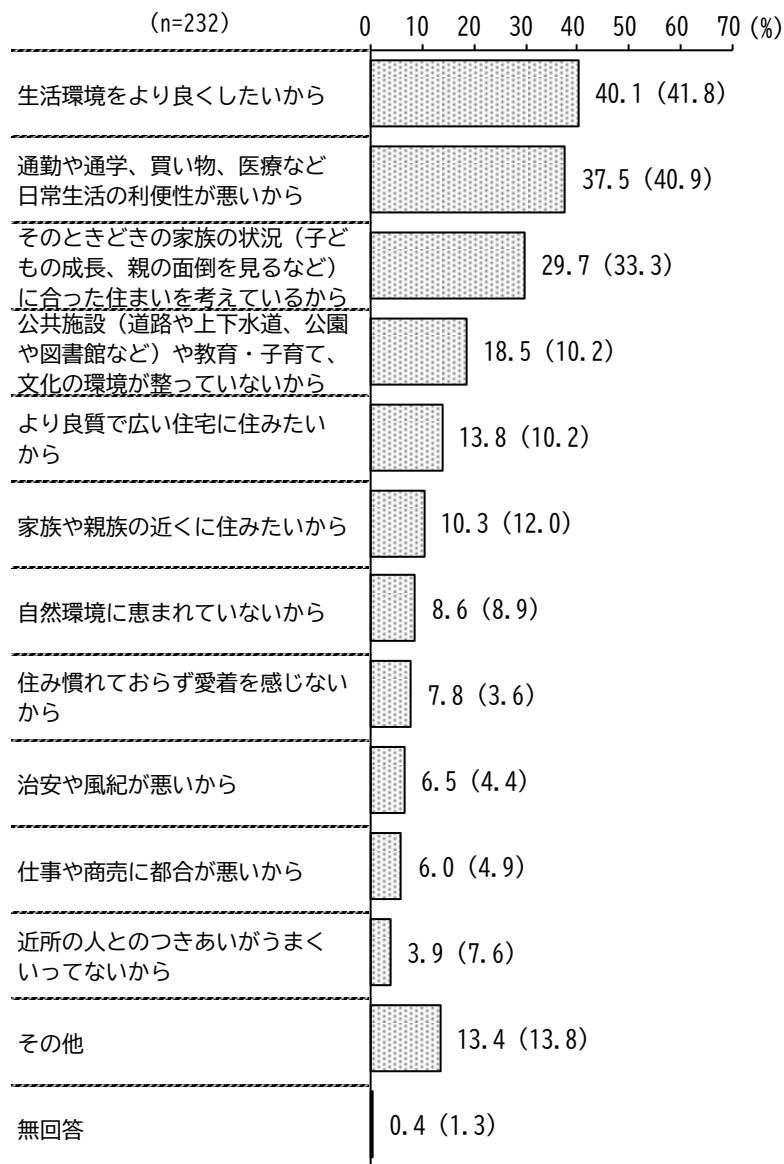


注) () 書きは、令和6年度の調査結果を示している。

(1-2)移りたい理由

(複数回答:3つまで)

「移りたい」と回答した232人を対象に、移りたい理由を聞いたところ、「生活環境をより良くしたいから」(40.1%)が4割で最も高く、以下、「通勤や通学、買い物、医療など日常生活の利便性が悪いから」(37.5%)、「そのときどきの家族の状況(子どもの成長、親の面倒を見るなど)に合った住まいを考えているから」(29.7%)、「公共施設(道路や上下水道、公園や図書館など)や教育・子育て、文化の環境が整っていないから」(18.5%)が続く。

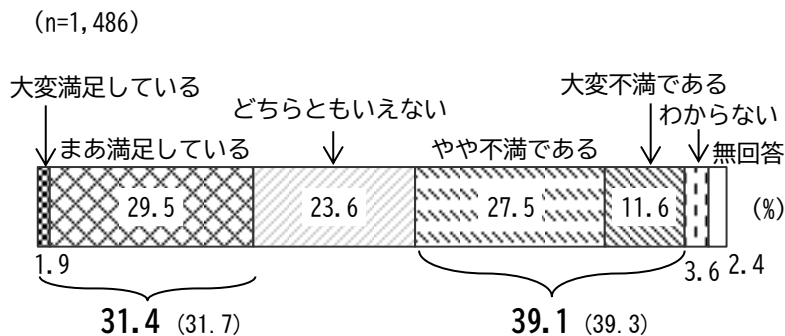


注) () 書きは、令和6年度の調査結果を示している。

(2)県内の道路状況の満足度

県内の道路状況の満足度を聞いたところ、「大変満足している」(1.9%)と「まあ満足している」(29.5%)を合わせた『満足している(計)』(31.4%)が3割を超えている。

一方、「やや不満である」(27.5%)と「大変不満である」(11.6%)を合わせた『不満である(計)』(39.1%)は約4割となっている。

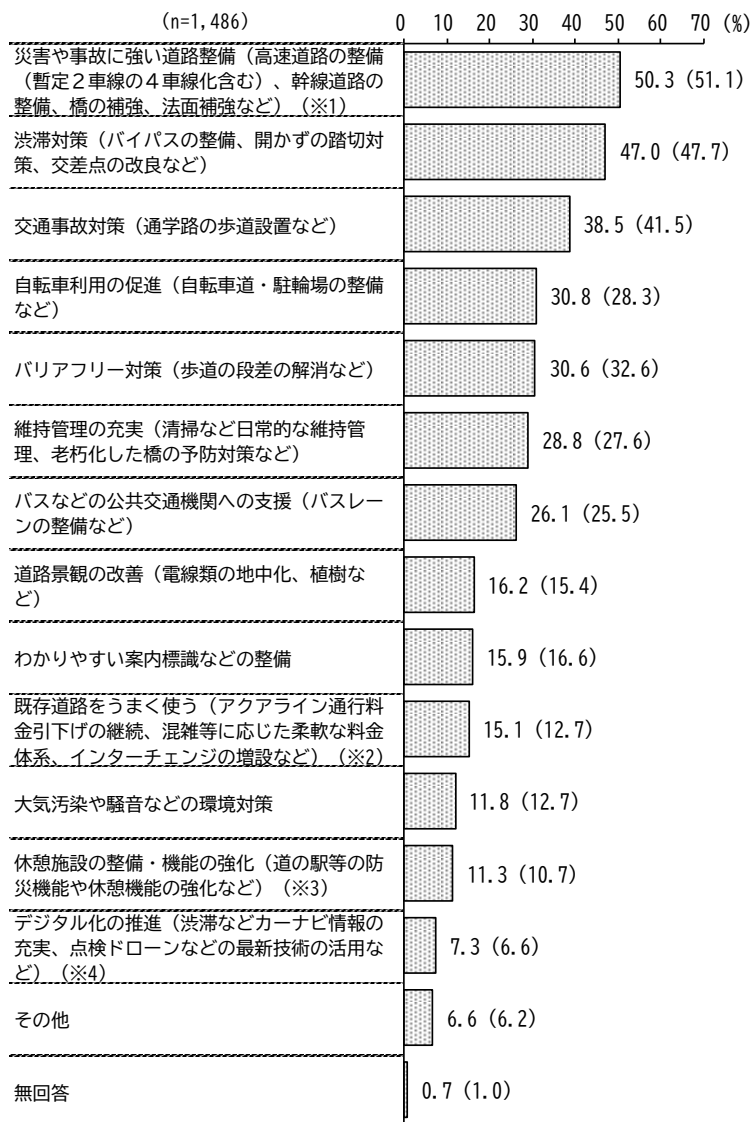


注) () 書きは、令和6年度の調査結果を示している。

(3) 今後、道路整備をしていく上で優先的に対策すべき課題

(複数回答:いくつでも)

今後、道路整備をしていく上で優先的に対策すべき課題を聞いたところ、「災害や事故に強い道路整備（高速道路の整備（暫定2車線の4車線化含む）、幹線道路の整備、橋の補強、法面補強など）」(50.3%)が5割で最も高く、以下、「渋滞対策（バイパスの整備、開かずの踏切対策、交差点の改良など）」(47.0%)、「交通事故対策（通学路の歩道設置など）」(38.5%)、「自転車利用の促進（自転車道・駐輪場の整備など）」(30.8%)が続く。



注) () 書きは、令和6年度の調査結果を示している。

(※1) 令和6年度調査では「災害に強い道路整備（高速道路の整備、幹線道路の整備、橋の補強など）」

(※2) 令和6年度調査では「既存道路の有効活用（アクアラインの通行料金の引下げの継続、インターチェンジの増設など）」

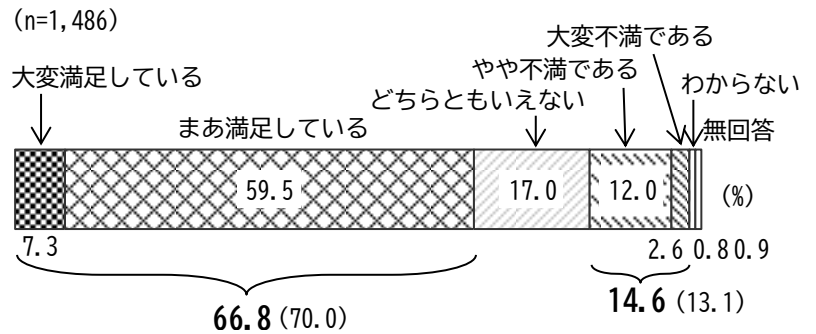
(※3) 令和6年度調査では「休憩施設の整備（道の駅等）」

(※4) 令和6年度調査では「カーナビ情報の充実（地図情報、渋滞情報の充実など）」

(4)住生活全般の満足度

現在の住生活全般（住まい・環境・地域社会）について、その満足度を聞いたところ、「大変満足している」（7.3％）と「まあ満足している」（59.5％）を合わせた『満足している（計）』（66.8％）が6割台半ばとなっている。

一方、「やや不満である」（12.0％）と「大変不満である」（2.6％）を合わせた『不満である（計）』（14.6％）が1割台半ばとなっている。

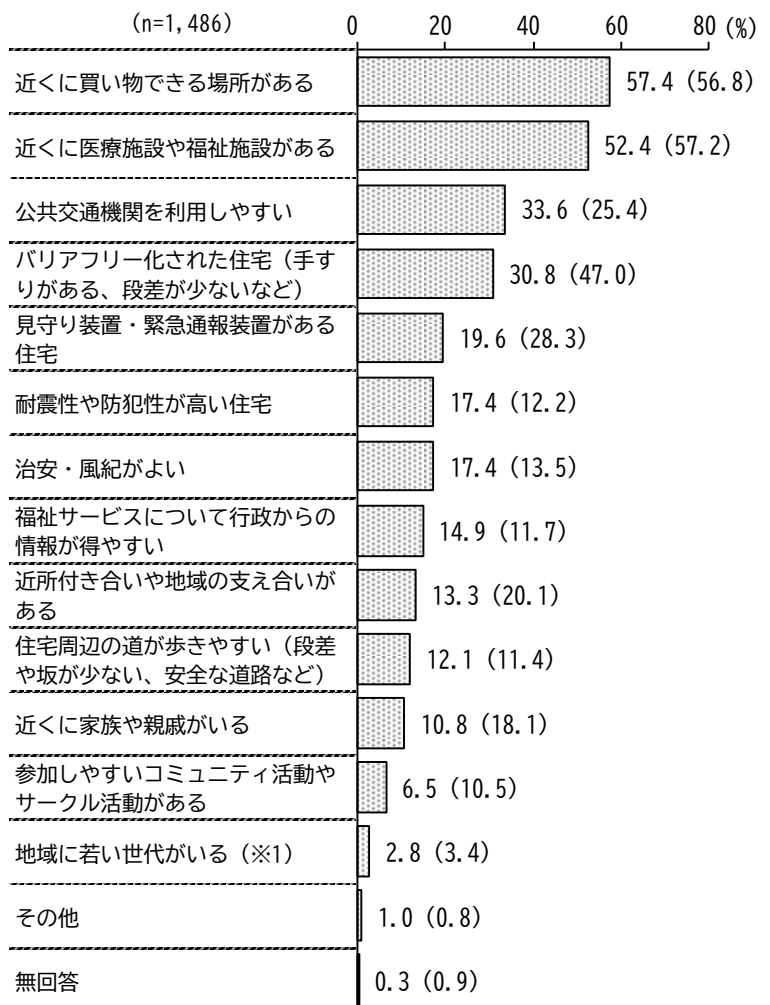


注) () 書きは、令和6年度の調査結果を示している。

(5)高齢期の住まいで重要なこと

(複数回答:3つまで)

高齢期の住まいで重要なことについて聞いたところ、「近くに買い物できる場所がある」(57.4％)が約6割で最も高く、以下、「近くに医療施設や福祉施設がある」(52.4％)、「公共交通機関を利用しやすい」(33.6％)、「バリアフリー化された住宅（手すりがある、段差が少ないなど）」(30.8％)が続く。

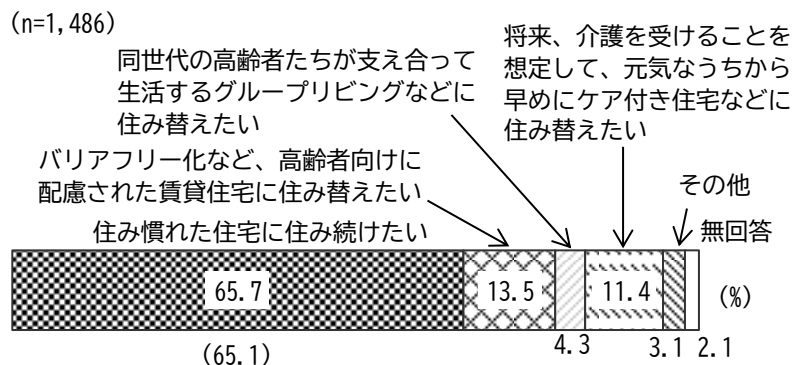


注) () 書きは、令和2年度の調査結果を示している。

(※1) 令和2年度調査では「地域に若い世代もいる」

(6)高齢期に住みたい住宅

高齢期に住みたい住宅について聞いたところ、「住み慣れた住宅に住み続けたい」(65.7%)が6割台半ばで最も高く、以下、「バリアフリー化など、高齢者向けに配慮された賃貸住宅に住み替えたい」(13.5%)、「将来、介護を受けることを想定して、元気なうちから早めにケア付き住宅などに住み替えたい」(11.4%)が続く。



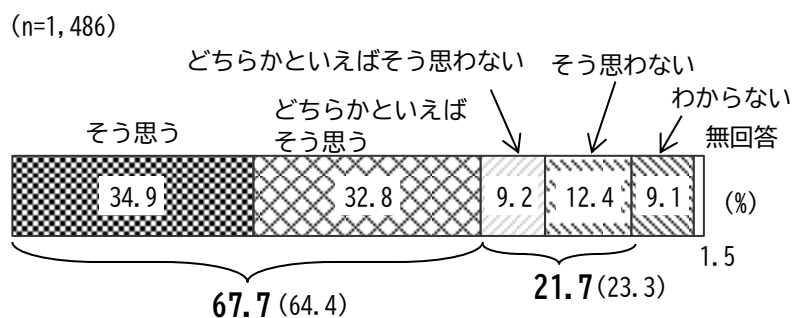
注) () 書きは、令和2年度の調査結果を示している。

(7)高齢期に備えた住宅の建て替え、買い替え、リフォームの必要性

高齢期に備えた住宅の建て替え、買い替え、リフォームの必要性について聞いたところ、「そう思う」(34.9%)と「どちらかといえばそう思う」(32.8%)を合わせた『そう思う(計)』(67.7%)が約7割となっている。

一方、「どちらかといえばそう思わない」(9.2%)と「そう思わない」(12.4%)を合わせた『そう思わない(計)』(21.7%)が2割を超えている。

また、「わからない」(9.1%)が約1割となっている。

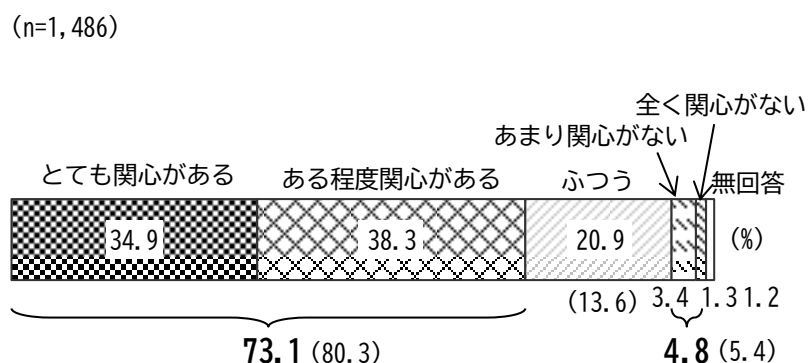


注) () 書きは、令和2年度の調査結果を示している。

(8)地球温暖化問題の関心度

地球温暖化問題について、その関心度を聞いたところ、「とても関心がある」(34.9%)と「ある程度関心がある」(38.3%)を合わせた『関心がある(計)』(73.1%)が7割を超えている。

一方、「あまり関心がない」(3.4%)と「全く関心がない」(1.3%)をあわせた『関心がない(計)』(4.8%)が1割未満、「ふつう」(20.9%)は2割となっている。



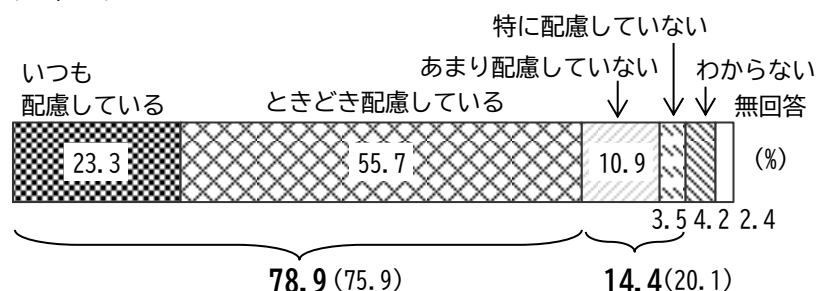
注) () 書きは、令和5年度の調査結果を示している。

(9)環境に配慮した行動

日常生活の中で環境に配慮して行動しているか聞いたところ、「いつも配慮している」(23.3%)と「ときどき配慮している」(55.7%)を合わせた『配慮している(計)』(78.9%)が約8割となっている。

一方、「あまり配慮していない」(10.9%)と「特に配慮していない」(3.5%)を合わせた『配慮していない(計)』(14.4%)が1割台半ばとなっている。

(n=1,486)



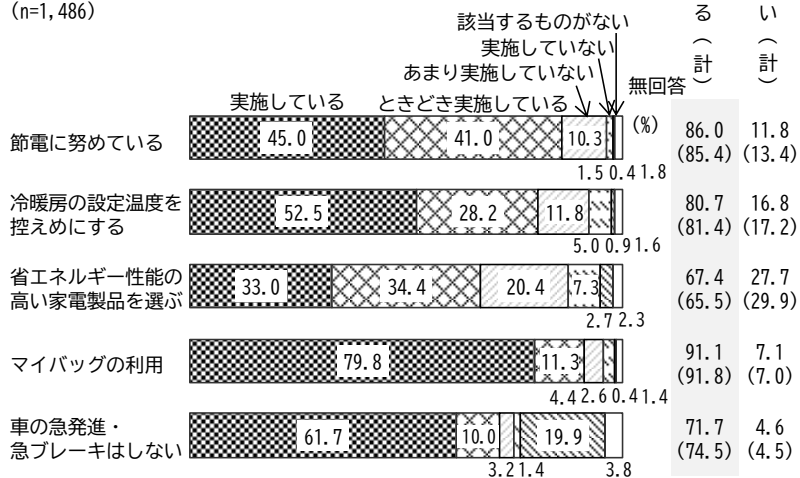
注) () 書きは、令和6年度の調査結果を示している。

(10)普段の生活で環境に配慮した取組の実施状況

普段の生活で行っている環境保全の取組に関する5つの項目について、それぞれの実施状況を聞いたところ、「実施している」と「ときどき実施している」を合わせた『実施している(計)』が最も高いのは、「マイバッグの利用」(91.1%)で9割を超え、以下、「節電に努めている」(86.0%)が8割台半ば、「冷暖房の設定温度を控えめにする」(80.7%)が8割で続く。

一方、「あまり実施していない」と「実施していない」を合わせた『実施していない(計)』が最も高いのは、「省エネルギー性能の高い家電製品を選ぶ」(27.7%)で約3割となっており、以下、「冷暖房の設定温度を控えめにする」(16.8%)が1割台半ば、「節電に努めている」(11.8%)が1割を超えて続く。

(n=1,486)

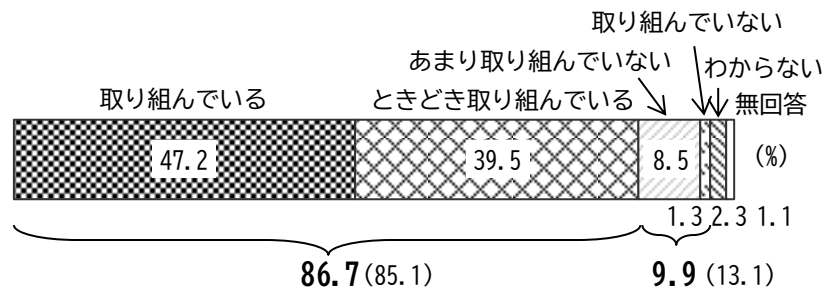


注) () 書きは、令和6年度の調査結果を示している。

(11)食品ロス削減の取組状況

食品ロス削減の取組状況を聞いたところ、「取り組んでいる」(47.2%)と「ときどき取り組んでいる」(39.5%)を合わせた『取り組んでいる(計)』(86.7%)が8割台半ばとなっている。一方、「あまり取り組んでいない」(8.5%)と「取り組んでいない」(1.3%)を合わせた『取り組んでいない(計)』(9.9%)は約1割となっている。

(n=1,486)



注) () 書きは、令和6年度の調査結果を示している。

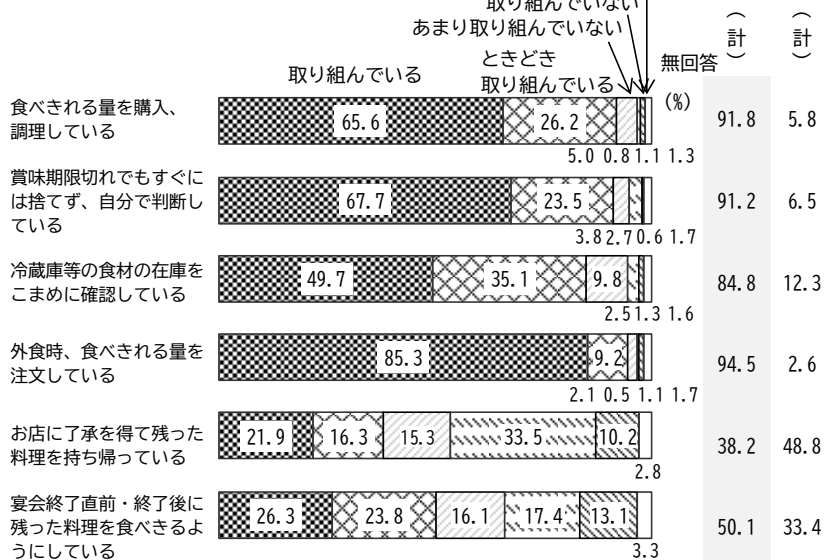
なお、令和6年度は「実施している」、「ときどき実施している」、「あまり実施していない」、「実施していない」、「該当するものがない」の選択肢で実施した。

(12)普段の生活で行っている食品ロスの削減に向けた取組

普段の生活で行っている食品ロスの削減に向けた取組に関する6つの項目について、それぞれの取組状況を聞いたところ、「取り組んでいる」と「ときどき取り組んでいる」を合わせた『取り組んでいる(計)』が最も高いのは、「外食時、食べきれる量を注文している」(94.5%)が9割台半ば、以下、「食べきれる量を購入、調理している」(91.8%)と「賞味期限切れでもすぐには捨てず、自分で判断している」(91.2%)と「賞味期限切れでもすぐには捨てず、自分で判断している」(91.2%)が9割を超えて続く。

一方、「あまり取り組んでいない」と「取り組んでいない」を合わせた『取り組んでいない(計)』が最も高いのは、「お店に了承を得て残った料理を持ち帰っている」(48.8%)が約5割、以下、「宴会終了直前・終了後に残った料理を食べるようにしている」(33.4%)が3割を超え、「冷蔵庫等の食材の在庫をこまめに確認している」(12.3%)が1割を超えて続く。

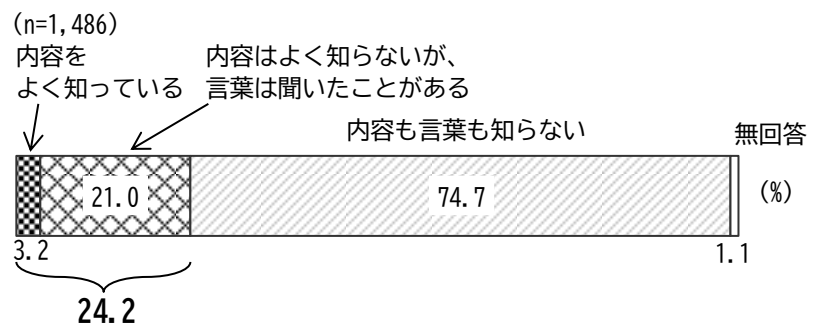
(n=1,486)



(13)「ちば食品ロス削減エコスタイル」の認知度

「ちば食品ロス削減エコスタイル」の認知を聞いたところ、「内容をよく知っている」(3.2%)と「内容はよく知らないが言葉は聞いたことがある」(21.0%)を合わせた『聞いたことがある(計)』(24.2%)が2割台半ばとなっている。

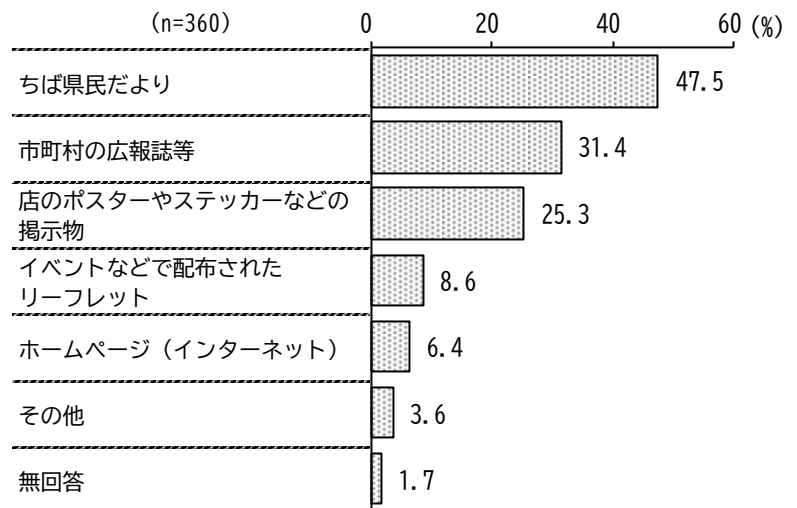
一方、「内容も言葉も知らない」(74.7%)は7割台半ばとなっている。



(13-1)「ちば食品ロス削減エコスタイル」の認知経路

(複数回答:いくつでも)

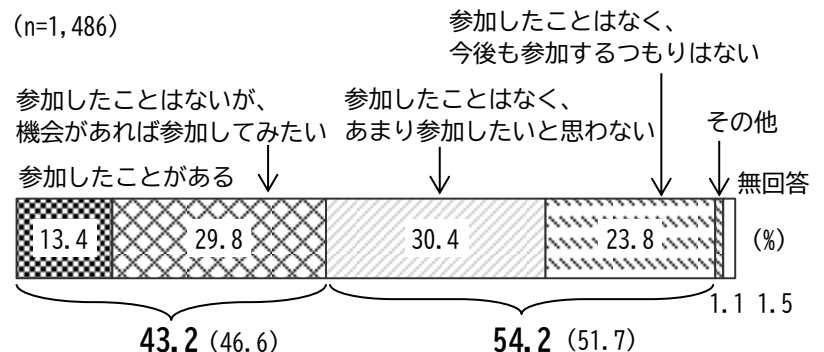
「ちば食品ロス削減エコスタイル」を「聞いたことがある」と回答した360人を対象に、認知経路を聞いたところ、「ちば県民だより」(47.5%)が約5割で最も高く、以下、「市町村の広報誌等」(31.4%)、「店のポスターやステッカーなどの掲示物」(25.3%)が続く。



(14)環境保全に関する講演やセミナー、環境ボランティア活動への参加状況

環境保全に関する講演やセミナー(オンライン参加含む)、環境ボランティア活動への参加状況を聞いたところ、「参加したことがある」(13.4%)が1割を超えており、これと「参加したことはないが、機会があれば参加してみたい」(29.8%)を合わせた『参加意向あり(計)』(43.2%)が4割を超えている。

一方、「参加したことはなく、あまり参加したいと思わない」(30.4%)と「参加したことはなく、今後も参加するつもりはない」(23.8%)を合わせた『参加意向なし(計)』(54.2%)が5割台半ばとなっている。



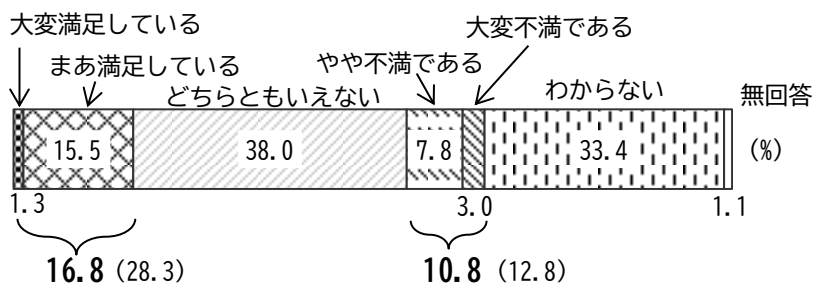
注) () 書きは、令和6年度の調査結果を示している。

(15)消費生活全般の満足度

消費生活全般（消費者トラブルの相談体制、消費者教育の機会、悪質商法への対策、生活必需品の安定供給など）について、その満足度を聞いたところ、「大変満足している」（1.3%）と「まあ満足している」（15.5%）を合わせた『満足している（計）』（16.8%）が1割台半ばとなっている。

一方、「やや不満である」（7.8%）と「大変不満である」（3.0%）を合わせた『不満である（計）』（10.8%）が1割となっている。

(n=1,486)



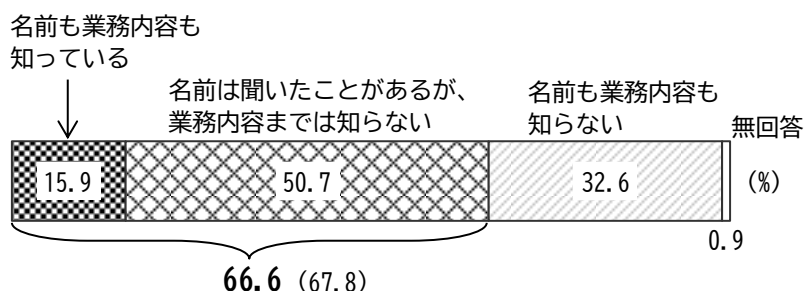
注）（ ）書きは、令和6年度の調査結果を示している。

(16)「県の消費者センター」や「市町村の消費生活センター」の認知度

「県の消費者センター」や「市町村の消費生活センター」を知っているか聞いたところ、「名前も業務内容も知っている」（15.9%）と「名前は聞いたことがあるが、業務内容までは知らない」（50.7%）を合わせた『名前を聞いたことがある（計）』（66.6%）が6割台半ばとなっている。

一方、「名前も業務内容も知らない」（32.6%）が3割を超えている。

(n=1,486)



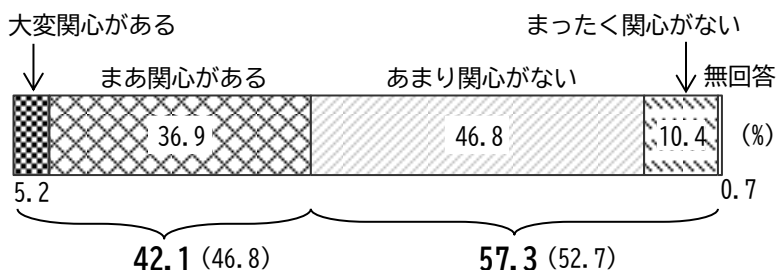
注）（ ）書きは、令和6年度の調査結果を示している。

(17)市民活動団体やボランティア活動の関心度

市民活動団体の活動や、ボランティア活動への関心度を聞いたところ、「大変関心がある」（5.2%）と「まあ関心がある」（36.9%）を合わせた『関心がある（計）』（42.1%）が4割を超えている。

一方、「あまり関心がない」（46.8%）と「まったく関心がない」（10.4%）を合わせた『関心がない（計）』（57.3%）が約6割となっている。

(n=1,486)

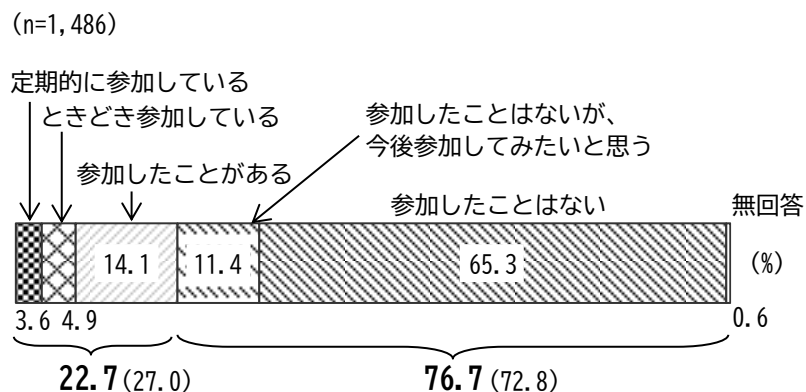


注）（ ）書きは、令和6年度の調査結果を示している。

(18)市民活動団体の活動への参加経験

市民活動団体の活動への参加経験を聞いたところ、「定期的に参加している」(3.6%)、「ときどき参加している」(4.9%)、「参加したことがある」(14.1%)の3つを合わせた『参加したことがある(計)』(22.7%)が2割を超えている。

一方、「参加したことはないが、今後参加してみたいと思う」(11.4%)と「参加したことはない」(65.3%)を合わせた『参加したことはない(計)』(76.7%)が7割台半ばとなっている。

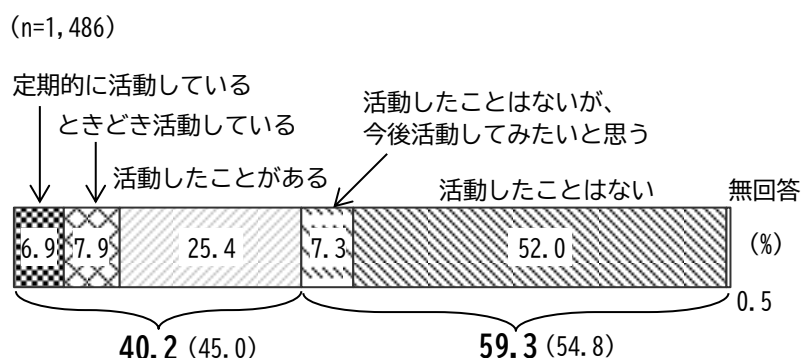


注) () 書きは、令和6年度の調査結果を示している。

(19)ボランティア活動経験

ボランティアとして活動したことがあるか聞いたところ、「定期的に活動している」(6.9%)、「ときどき活動している」(7.9%)、「活動したことがある」(25.4%)の3つを合わせた『活動したことがある(計)』(40.2%)が4割となっている。

一方、「活動したことはないが、今後活動してみたいと思う」(7.3%)と「活動したことはない」(52.0%)を合わせた『活動したことはない(計)』(59.3%)が約6割となっている。



注) () 書きは、令和6年度の調査結果を示している。

(20)この1年間の文化芸術の鑑賞及び活動の経験

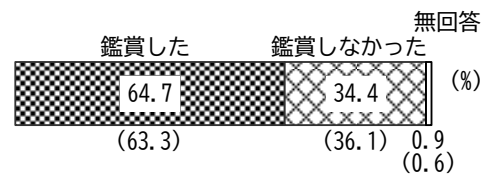
この1年間の文化芸術の鑑賞及び活動の経験を聞いたところ、鑑賞については「オンラインやテレビでの鑑賞」(66.8%)、「直接の鑑賞」(64.7%)がともに6割台半ばとなっている。

活動については「直接の文化芸術活動」(24.0%)が2割台半ば、「オンラインでの文化芸術活動」(10.2%)が1割となっている。

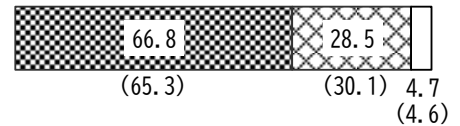
(n=1,486)

直接の鑑賞

(施設での音楽鑑賞、美術館や博物館での展示会の鑑賞、舞台公演鑑賞、史跡めぐり、読書、映画館での鑑賞など)

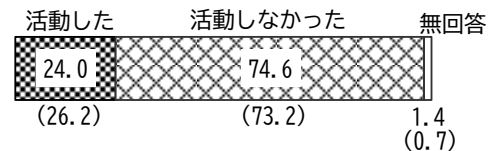


オンラインやテレビでの鑑賞



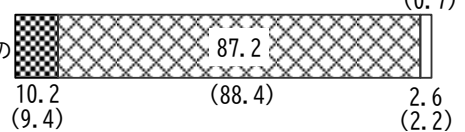
直接の文化芸術活動

(創作、音楽の演奏や舞台等への出演、習い事、趣味を同じくするグループでの活動、地域の祭りや体験活動への参加など)



オンラインでの文化芸術活動

(動画や写真の投稿、デジタルアートの創作など)

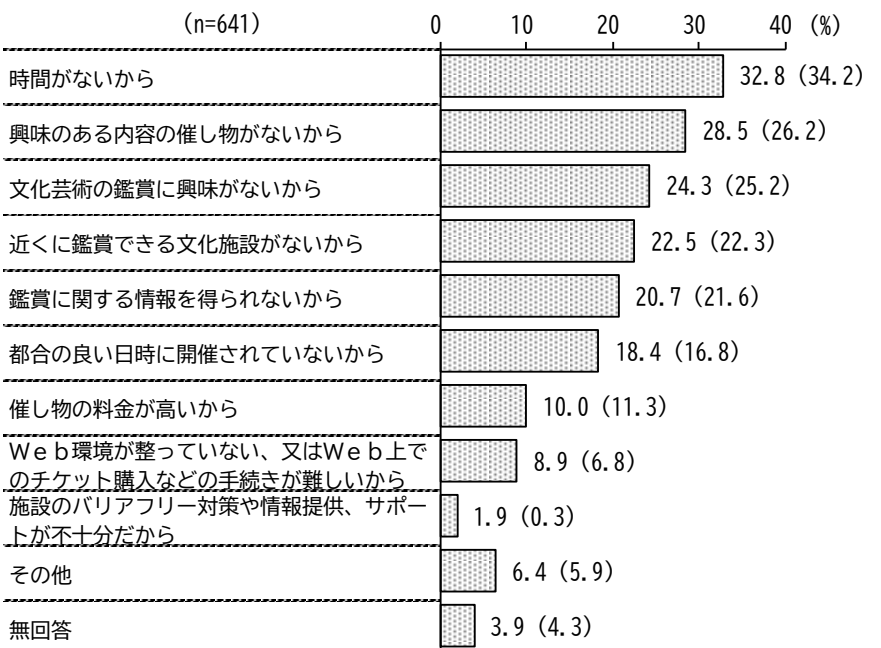


注) () 書きは、令和6年度の調査結果を示している。

(20-1)文化芸術を鑑賞しなかった理由

(複数回答:いくつでも)

この1年間の文化芸術の鑑賞について、直接またはオンラインやテレビで鑑賞しなかったと回答した641人を対象に、鑑賞しなかった理由を聞いたところ、「時間がないから」(32.8%)が3割を超えて最も高く、以下、「興味のある内容の催し物がないから」(28.5%)、「文化芸術の鑑賞に興味がないから」(24.3%)、「近くに鑑賞できる文化施設がないから」(22.5%)が続く。

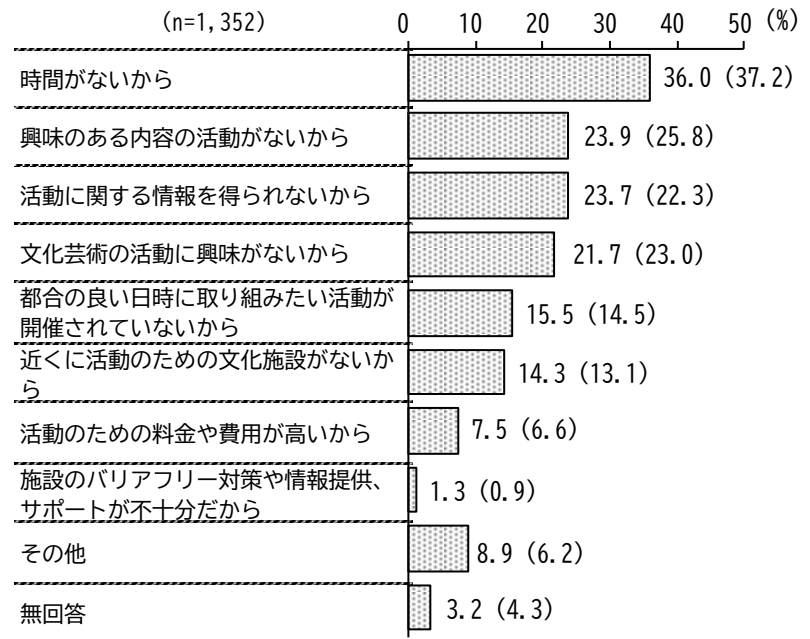


注) () 書きは、令和6年度の調査結果を示している。

(20-2)文化芸術活動をしなかった理由

(複数回答:いくつでも)

この1年間の文化芸術活動について、直接またはオンラインで活動しなかったと回答した1,352人を対象に、活動しなかった理由を聞いたところ、「時間がないから」(36.0%)が3割台半ばで最も高く、以下、「興味のある内容の活動がないから」(23.9%)、「活動に関する情報を得られないから」(23.7%)、「文化芸術の活動に興味がないから」(21.7%)が続く。



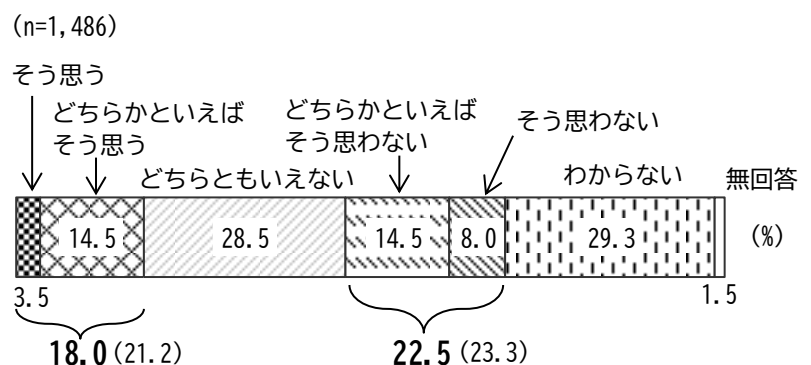
注) () 書きは、令和6年度の調査結果を示している。

(21)文化芸術に触れ、自ら取り組むための環境の整備状況

千葉県において、文化芸術に触れ、自ら取り組むための環境が整っていると思うか聞いたところ、「そう思う」(3.5%)と「どちらかといえばそう思う」(14.5%)を合わせた『そう思う(計)』(18.0%)が約2割となっている。

一方、「どちらかといえばそう思わない」(14.5%)と「そう思わない」(8.0%)を合わせた『そう思わない(計)』(22.5%)が2割を超えている。

また、「どちらともいえない」(28.5%)が約3割、「わからない」(29.3%)が約3割となっている。



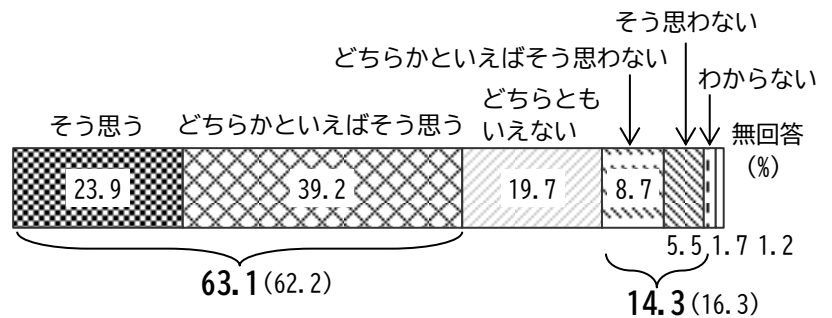
注) () 書きは、令和6年度の調査結果を示している。

(1)健康づくりへの取組状況

積極的に健康づくりに取り組んでいるか聞いたところ、「そう思う」(23.9%)と「どちらかといえばそう思う」(39.2%)を合わせた『そう思う(計)』(63.1%)が6割を超えている。

一方、「どちらかといえばそう思わない」(8.7%)と「そう思わない」(5.5%)を合わせた『そう思わない(計)』(14.3%)が1割台半ばとなっている。

(n=1,486)



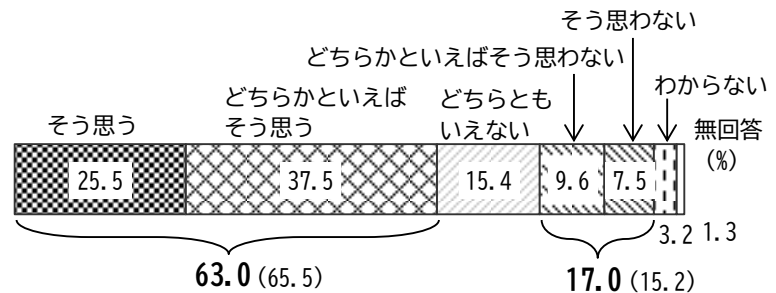
注) () 書きは、令和6年度の調査結果を示している。

(2)安心して受診できる医療体制

住み慣れた地域で安心して受診できる医療体制にあると思うか聞いたところ、「そう思う」(25.5%)と「どちらかといえばそう思う」(37.5%)を合わせた『そう思う(計)』(63.0%)が6割を超えている。

一方、「どちらかといえばそう思わない」(9.6%)と「そう思わない」(7.5%)を合わせた『そう思わない(計)』(17.0%)が約2割となっている。

(n=1,486)



注) () 書きは、令和6年度の調査結果を示している。

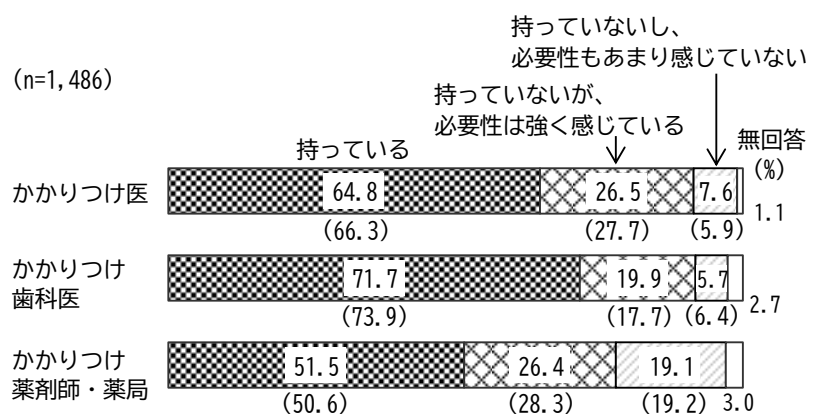
(3)かかりつけ医の有無

かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬剤師・薬局を持っているかどうかを聞いたところ、「持っている」は〈かかりつけ歯科医〉(71.7%)が7割を超え、〈かかりつけ医〉(64.8%)が6割台半ば、〈かかりつけ薬剤師・薬局〉(51.5%)が5割を超えている。

また、「持っていないが、必要性は強く感じている」は〈かかりつけ医〉(26.5%)と〈かかりつけ薬剤師・薬局〉(26.4%)が2割台半ば、〈かかりつけ歯科医〉(19.9%)が約2割となっている。

「持っていないし、必要性もあまり感じていない」は〈かかりつけ薬剤師・薬局〉(19.1%)が約2割となっている。

(n=1,486)

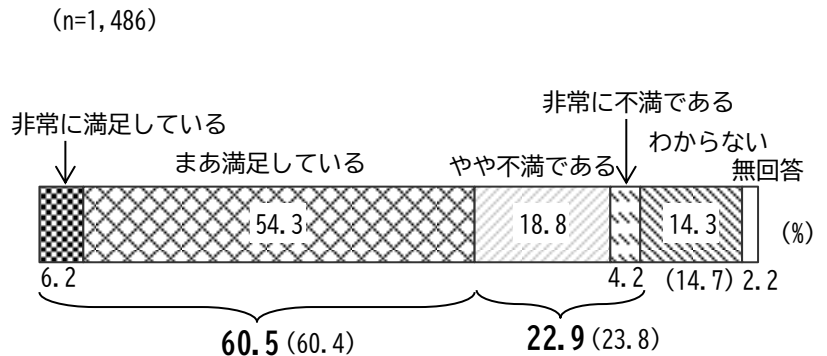


注) () 書きは、令和6年度の調査結果を示している。

(1) 県内の医療の満足度

県内の医療の満足度を聞いたところ、「非常に満足している」(6.2%)と「まあ満足している」(54.3%)を合わせた『満足している(計)』(60.5%)が6割となっている。

一方、「やや不満である」(18.8%)と「非常に不満である」(4.2%)を合わせた『不満である(計)』(22.9%)は2割を超えている。

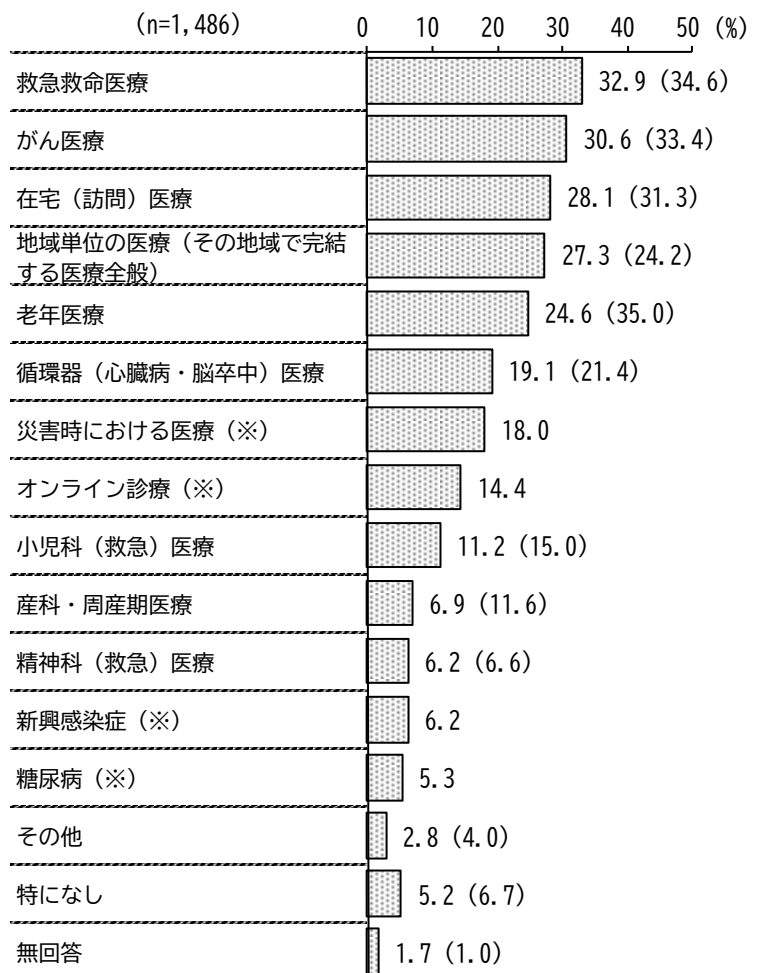


注) () 書きは、令和6年度の調査結果を示している。

(2) 今後、県に力を入れて欲しい医療

(複数回答:3つまで)

今後、県に力を入れて欲しい医療について聞いたところ、「救急救命医療」(32.9%)が3割を超えて最も高く、以下、「がん医療」(30.6%)、「在宅(訪問)医療」(28.1%)、「地域単位の医療(その地域で完結する医療全般)」(27.3%)が続く。



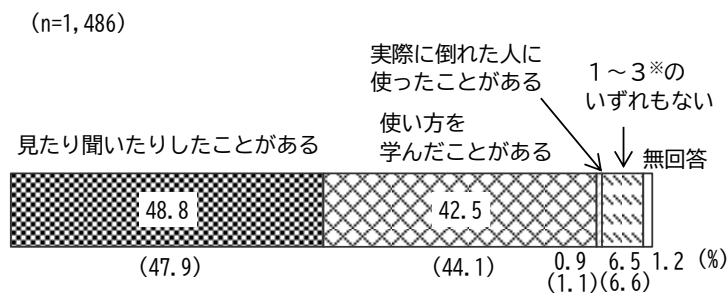
注) () 書きは、令和6年度の調査結果を示している。

(※) 今回調査からの新規項目

(3)AEDの認知度・利用経験

AED（自動体外式除細動器）について見聞きしたり、使ったことがあるか聞いたところ、「見たり聞いたりしたことがある」（48.8%）が約5割、「使い方を学んだことがある」（42.5%）が4割を超えている。

一方、「1～3のいずれもない」（6.5%）は1割未満となっている。



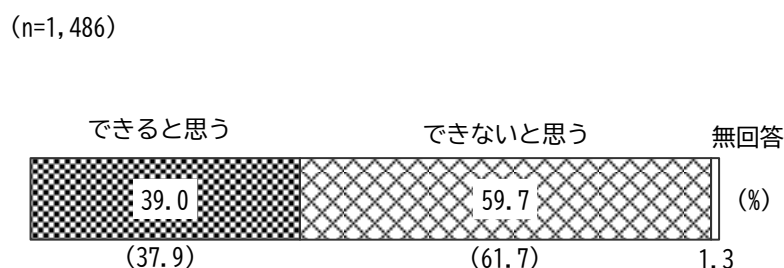
※ 1～3とは、「見たり聞いたりしたことがある」、「使い方を学んだことがある」、「実際に倒れた人に使ったことがある」を指します。

注) () 書きは、令和6年度の調査結果を示している。

(4)AEDを使用できるか

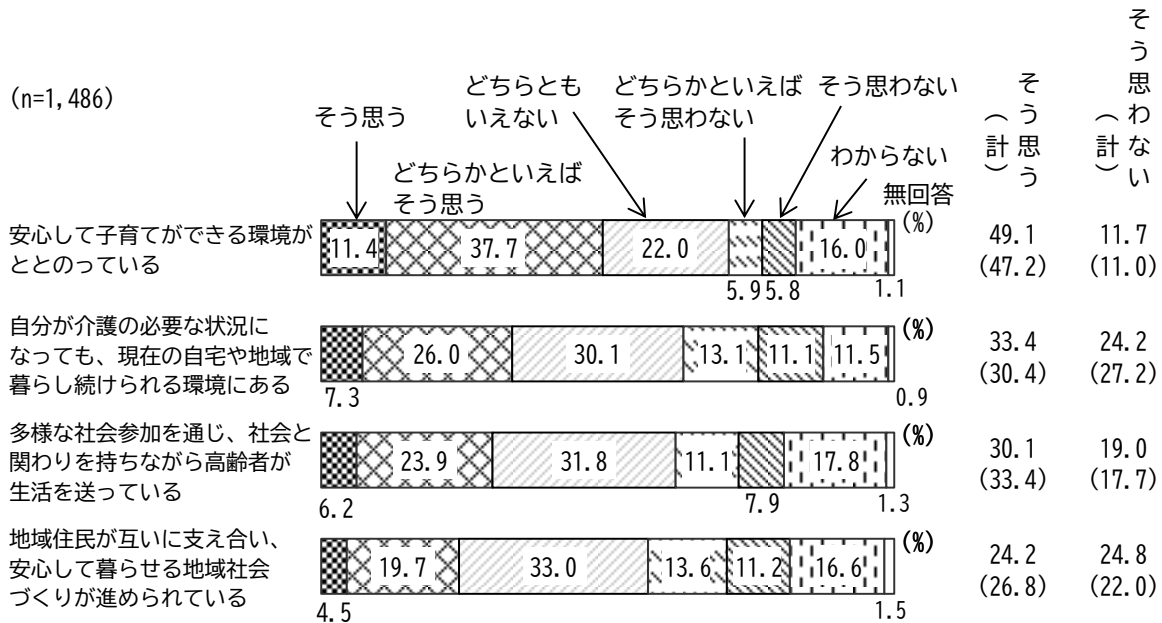
AEDを使用できるか聞いたところ、「できると思う」（39.0%）が約4割となっている。

一方、「できないと思う」（59.7%）は約6割となっている。



注) () 書きは、令和6年度の調査結果を示している。

(1) 地域の福祉の状況について



地域の福祉の状況に関する4項目について、お住まいの地域がどのような状況か聞いたところ、「思う」と「どちらかといえば思う」を合わせた『思う (計)』は、「安心して子育てができる環境がととのっている」(49.1%)が約5割、「自分が介護の必要な状況になっても、現在の自宅や地域で暮らし続けられる環境にある」(33.4%)が3割を超え、「多様な社会参加を通じ、社会と関わりを持ちながら高齢者が生活を送っている」(30.1%)が3割となっている。

一方、「どちらかといえばそう思わない」と「そう思わない」を合わせた『そう思わない (計)』は、「地域住民が互いに支え合い、安心して暮らせる地域社会づくりが進められている」(24.8%)と「自分が介護の必要な状況になっても、現在の自宅や地域で暮らし続けられる環境にある」(24.2%)が2割台半ば、「多様な社会参加を通じ、社会と関わりを持ちながら高齢者が生活を送っている」(19.0%)が約2割となっている。

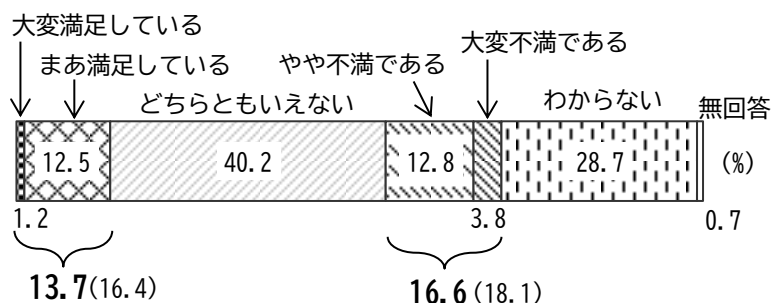
(2)お年寄りが安心して暮らせる高齢者施策について

県が進めている「お年寄りが安心して暮らせる高齢者施策」について、その満足度を聞いたところ、「大変満足している」(1.2%)と「まあ満足している」(12.5%)を合わせた『満足している(計)』(13.7%)が1割台半ばとなっている。

一方、「やや不満である」(12.8%)と「大変不満である」(3.8%)を合わせた『不満である(計)』(16.6%)が1割台半ばとなっている。

また、「どちらともいえない」(40.2%)が4割となっている。

(n=1,486)



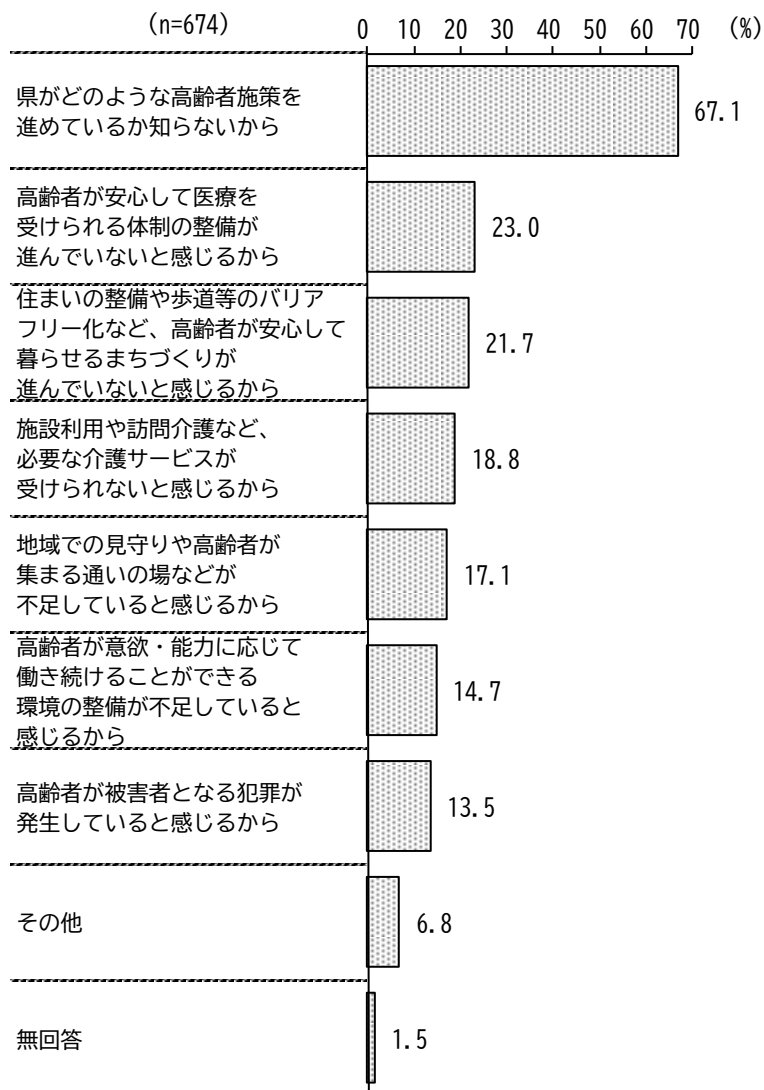
注) () 書きは、令和6年度の調査結果を示している。

(2-1)お年寄りが安心して暮らせる高齢者施策への不満点

(複数回答:3つまで)

お年寄りが安心して暮らせる高齢者施策への不満点について聞いたところ、「県がどのような高齢者施策を進めているか知らないから」(67.1%)が約7割で最も高く、以下、「高齢者が安心して医療を受けられる体制の整備が進んでいないと感じるから」

(23.0%)、「住まいの整備や歩道等のバリアフリー化など、高齢者が安心して暮らせるまちづくりが進んでいないと感じるから」(21.7%)、「施設利用や訪問介護など、必要な介護サービスが受けられないと感じるから」(18.8%)が続く。



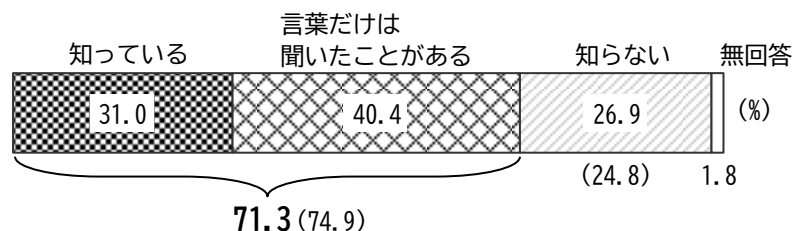
(3)「共生社会」の認知度

「共生社会」という考え方を知っているか聞いたところ、「知っている」

(31.0%)と「言葉だけは聞いたことがある」(40.4%)を合わせた『聞いたことがある(計)』(71.3%)が7割を超えている。

一方、「知らない」(26.9%)が2割台半ばとなっている。

(n=1,486)



注) () 書きは、令和6年度の調査結果を示している。

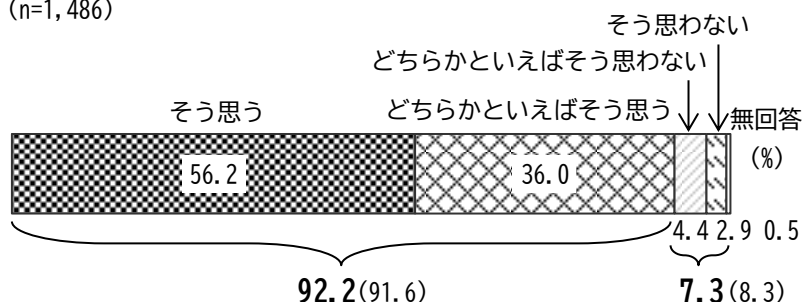
5 県の農林水産物について

(1)千葉県産農林水産物の購入意向

千葉県産農林水産物を購入したいと思うか聞いたところ、「そう思う」(56.2%)と「どちらかといえばそう思う」(36.0%)を合わせた『そう思う(計)』(92.2%)が9割を超えている。

一方、「どちらかといえばそう思わない」(4.4%)と「そう思わない」(2.9%)を合わせた『そう思わない(計)』(7.3%)は約1割となっている。

(n=1,486)

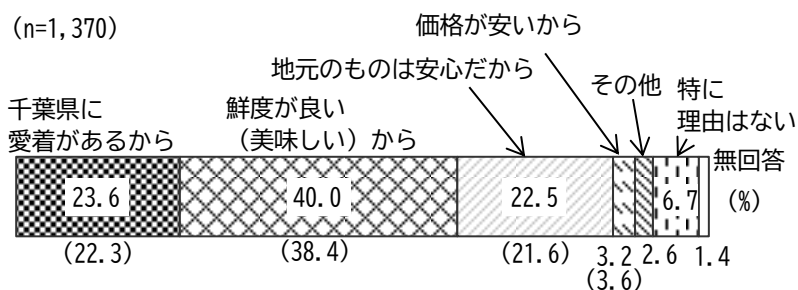


注) () 書きは、令和6年度の調査結果を示している。

(1-1)千葉県産農林水産物を購入したいと思う理由

千葉県産農林水産物を購入したいと回答した1,370人を対象に、その主な理由を聞いたところ、「鮮度が良い(美味しい)から」(40.0%)が4割で最も高く、以下、「千葉県に愛着があるから」(23.6%)、「地元のものは安心だから」(22.5%)が続く。

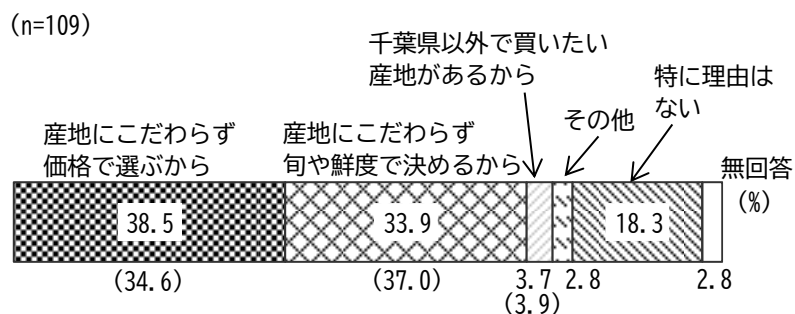
(n=1,370)



注) () 書きは、令和6年度の調査結果を示している。

(1-2)千葉県産農林水産物を購入したいと思わない理由

千葉県産農林水産物を購入したいと思わないと回答した109人を対象に、その主な理由を聞いたところ、「産地にこだわらず価格で選ぶから」(38.5%)が約4割で最も高く、以下、「産地にこだわらず旬や鮮度で決めるから」(33.9%)、「千葉県以外で買いたい産地があるから」(3.7%)が続く。一方、「特に理由はない」(18.3%)が約2割となっている。

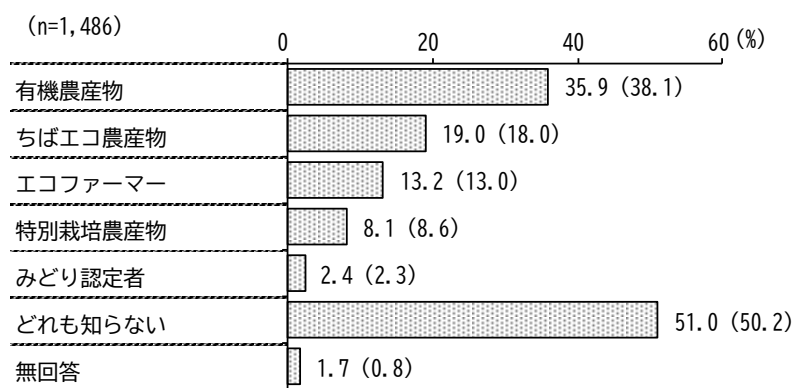


注) () 書きは、令和6年度の調査結果を示している。

(2)環境にやさしい農産物や制度の認知度

(複数回答:いくつでも)

農薬や化学肥料の使用量の低減などに取り組む農業者・農産物や認証する制度を聞いたことがあるか聞いたところ、「有機農産物」(35.9%)が3割台半ばで最も高く、以下、「ちばエコ農産物」(19.0%)、「エコファーマー」(13.2%)、「特別栽培農産物」(8.1%)が続く。

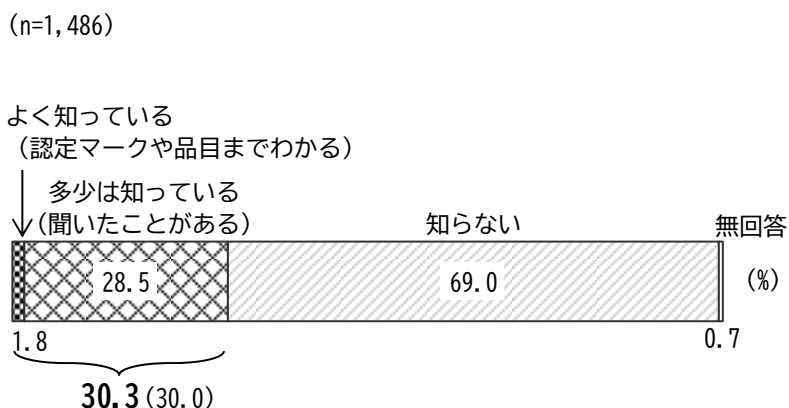


注) () 書きは、令和6年度の調査結果を示している。

(3)「千葉ブランド水産物」の認知度

「千葉ブランド水産物」を知っているか聞いたところ、「よく知っている(認定マークや品目までわかる)」(1.8%)と「多少は知っている(聞いたことがある)」(28.5%)を合わせた『知っている(計)』(30.3%)が3割となっている。

一方、「知らない」(69.0%)が約7割となっている。



注) () 書きは、令和6年度の調査結果を示している。

6 防災に関する取組について

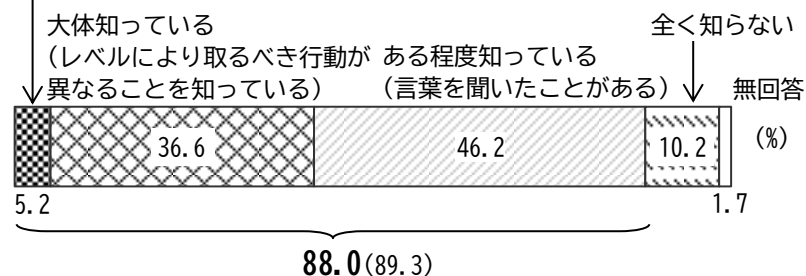
(1) 防災情報の警戒レベルの意味・取るべき行動の認知度

水害・土砂災害の防災情報の伝え方で、各警戒レベルの意味や、その際に取るべき行動について知っているか聞いたところ、「よく知っている（それぞれのレベルの意味までわかる）」（5.2%）と「大体知っている（レベルにより取るべき行動が異なることを知っている）」（36.6%）、「ある程度知っている（言葉を聞いたことがある）」（46.2%）の3つを合わせた『知っている（計）』（88.0%）が約9割となっている。

一方、「全く知らない」（10.2%）が1割となっている。

(n=1,486)

よく知っている
(それぞれのレベルの意味までわかる)



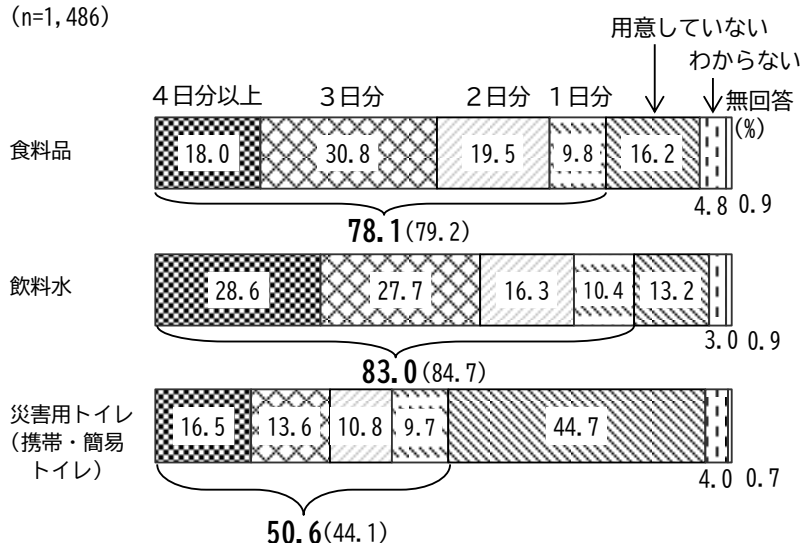
注) () 書きは、令和6年度の調査結果を示している。

(2) 飲料水や食料、災害用トイレ(簡易・携帯)の備蓄状況

災害時に利用できる食料品等を何日分用意しているか聞いたところ、「4日分以上」、「3日分」、「2日分」、「1日分」の4つを合わせた『用意している（計）』が最も高いのは、「飲料水」（83.0%）で8割を超え、以下、「食料品」（78.1%）が約8割、「災害用トイレ（携帯・簡易トイレ）」（50.6%）が5割となっている。

一方、「用意していない」が最も高いのは、「災害用トイレ（携帯・簡易トイレ）」（44.7%）で4割台半ばとなっており、以下、「食料品」（16.2%）が1割台半ば、「飲料水」（13.2%）が1割を超えている。

(n=1,486)



注) () 書きは、令和6年度の調査結果を示している。

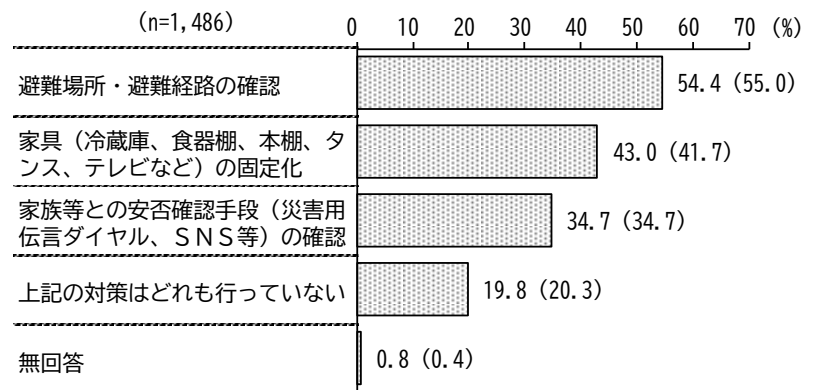
(3)地震や台風などの災害への対策

(複数回答:いくつでも)

地震や台風などの災害に備えて、どのような対策を行っているか聞いたところ、「避難場所・避難経路の確認」

(54.4%) が5割台半ばで最も高く、以下、「家具(冷蔵庫、食器棚、本棚、タンス、テレビなど)の固定化」(43.0%)、「家族等との安否確認手段(災害用伝言ダイヤル、SNS等)の確認」(34.7%)が続く。

一方、「上記の対策はどれも行っていない」(19.8%)が約2割となっている。



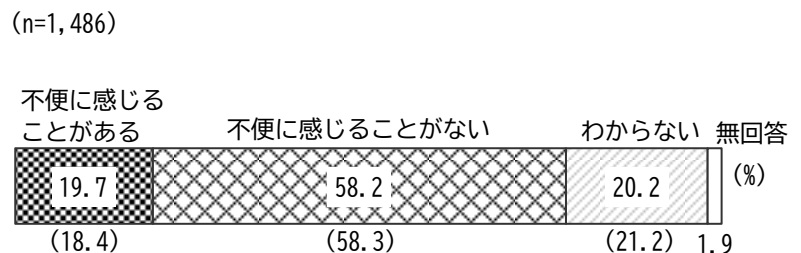
注) () 書きは、令和6年度の調査結果を示している。

7 公金のキャッシュレス化の推進について

(1)公金の納付に当たり不便と感ずることの有無

税金や使用料・手数料などの県の公金の納付に当たり、不便と感ずることがあるかを聞いたところ、「不便に感ずることがある」(19.7%)が約2割となっている。

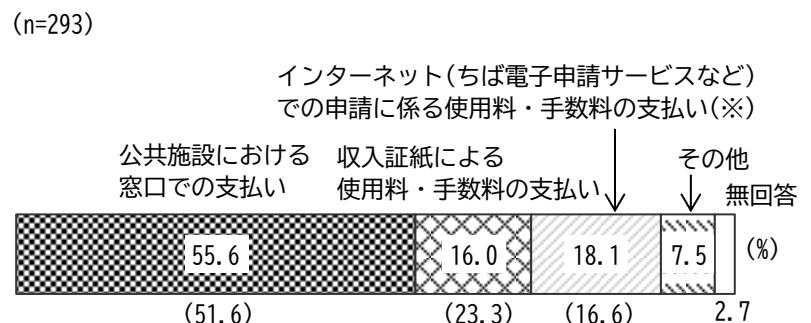
一方、「不便に感ずることがない」(58.2%)が約6割となっている。



注) () 書きは、令和6年度の調査結果を示している。

(1-1)キャッシュレス決済を拡大すべきだと思う場面

公金の納付に当たり「不便に感ずることがある」と回答した293人を対象に、特に、どの場面のキャッシュレス決済を拡大すべきだと思うかを聞いたところ、「公共施設における窓口での支払い」(55.6%)が5割台半ばで最も高く、以下、「インターネット(ちば電子申請サービスなど)での申請に係る使用料・手数料の支払い」(18.1%)、「収入証紙による使用料・手数料の支払い」(16.0%)が続く。



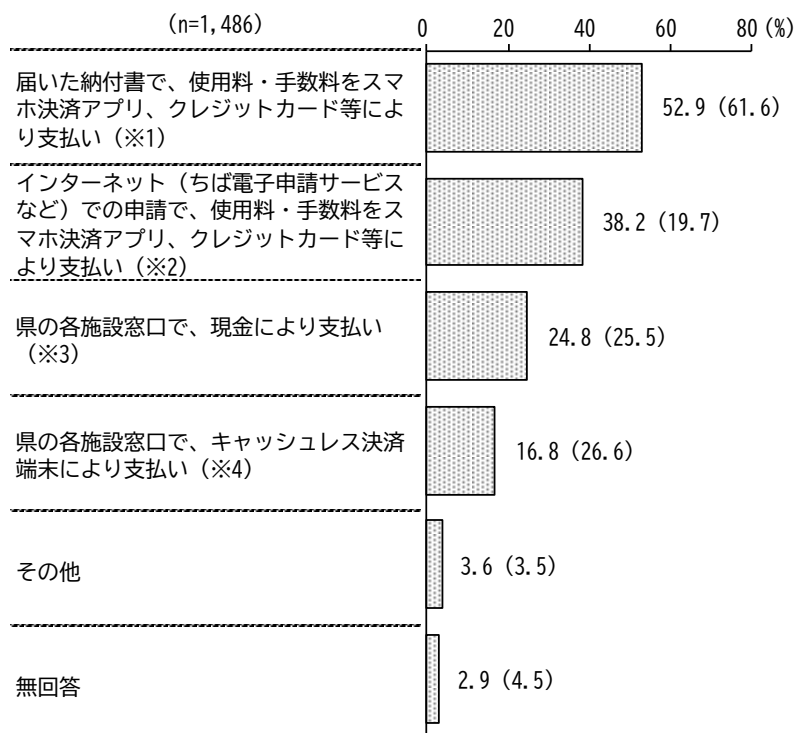
注) () 書きは、令和6年度の調査結果を示している。

(※) 令和6年度調査では「インターネット(ちば電子システムなど)での申請に係る使用料・手数料の支払い」

(2) 便利だと思う公金の納付方法

(複数回答:いくつでも)

便利だと思う公金の納付方法を聞いたところ、「届いた納付書で、使用料・手数料をスマホ決済アプリ、クレジットカード等により支払い」(52.9%)が5割を超えて最も高く、以下、「インターネット(ちば電子申請サービスなど)での申請で、使用料・手数料をスマホ決済アプリ、クレジットカード等により支払い」(38.2%)、「県の各施設窓口で、現金により支払い」(24.8%)、「県の各施設窓口で、キャッシュレス決済端末により支払い」(16.8%)が続く。



注) () 書きは、令和6年度の調査結果を示している。
令和6年度調査は以下の選択肢で実施した。

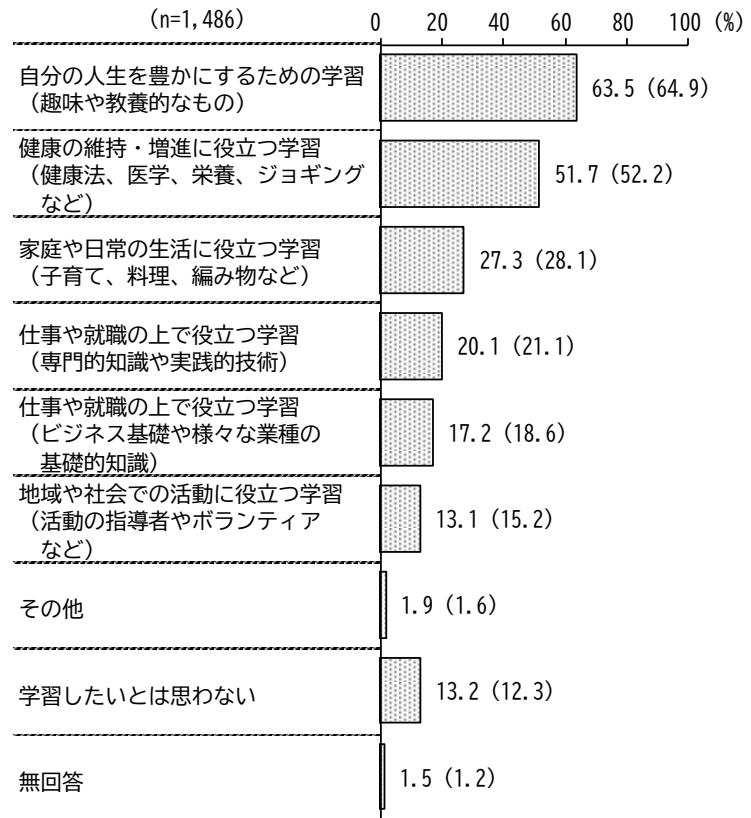
- (※1) 「県の各施設窓口以外での、スマホ決済アプリ(PayPay、LINEPay、PayBなど)、クレジットカード(Visa、Master、JCBなど)による支払い」
- (※2) 「インターネット(ちば電子システムなど)での申請による使用料・手数料の支払い」
- (※3) 「県の各施設窓口での現金による支払い」
- (※4) 「県の各施設窓口でのキャッシュレス決済端末による支払い」

(1) 今後学習したいと思うこと

(複数回答:いくつでも)

今後、学習したいと思うことを聞いたところ、「自分の人生を豊かにするための学習（趣味や教養的なもの）」（63.5%）が6割台半ばで最も高く、以下、「健康の維持・増進に役立つ学習（健康法、医学、栄養、ジョギングなど）」（51.7%）、「家庭や日常生活に役立つ学習（子育て、料理、編み物など）」（27.3%）、「仕事や就職の上で役立つ学習（専門的知識や実践的技術）」（20.1%）が続く。

一方、「学習したいとは思わない」（13.2%）が1割を超えている。



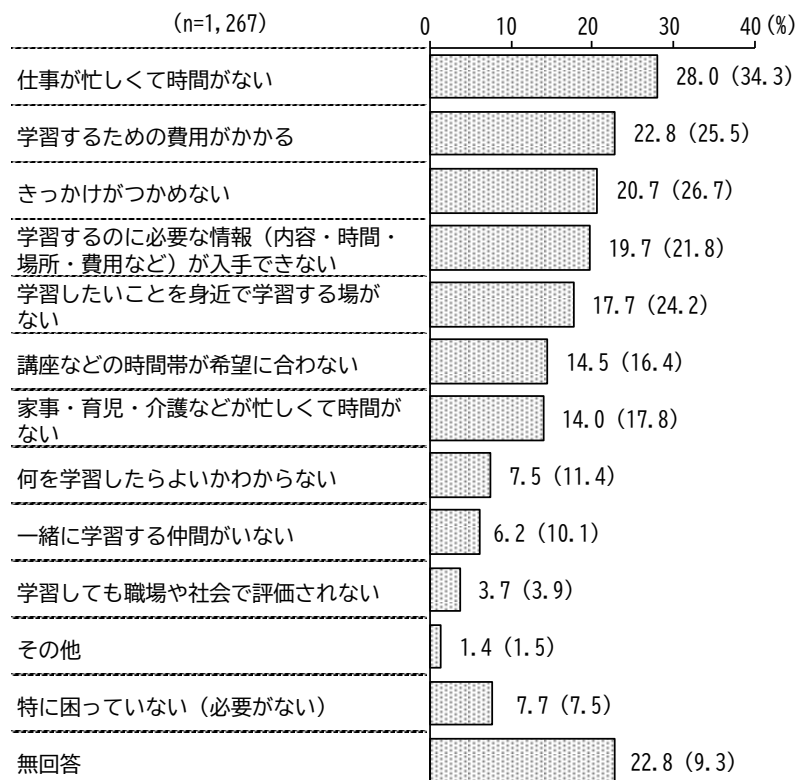
注) () 書きは、令和6年度の調査結果を示している。

(1-1) 学習する上で困っていること

(複数回答:いくつでも)

「学習したいとは思わない」以外を回答した1,267人に、学習する上で困っていることを聞いたところ、「仕事が忙しくて時間がない」（28.0%）が約3割で最も高く、以下、「学習するための費用がかかる」（22.8%）、「きっかけがつかめない」（20.7%）、「学習するのに必要な情報（内容・時間・場所・費用など）が入手できない」（19.7%）が続く。

一方、「特に困っていない（必要がない）」（7.7%）が約1割となっている。



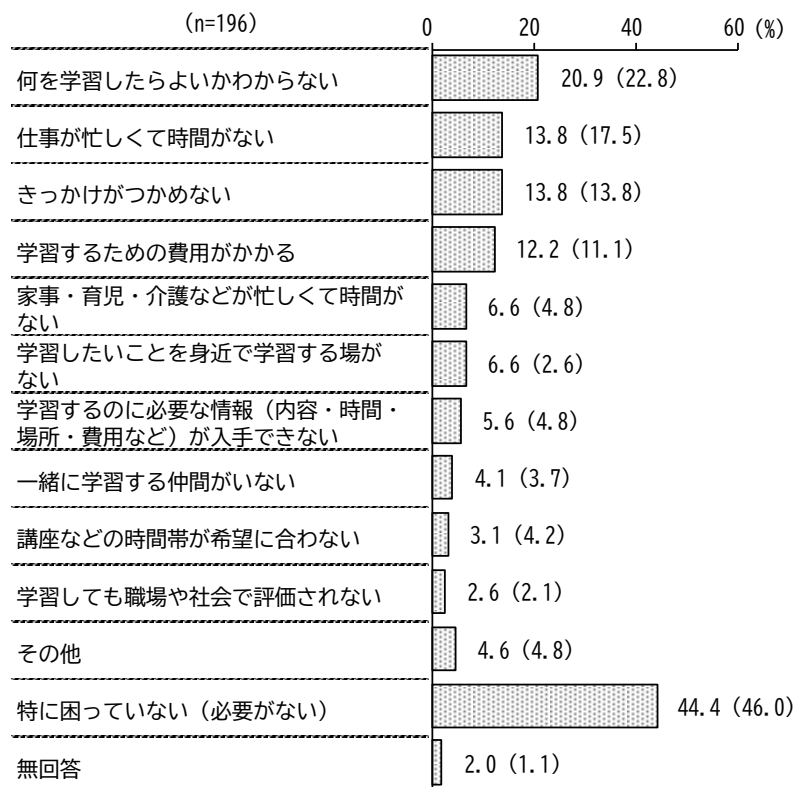
注) () 書きは、令和6年度の調査結果を示している。

(1-2)学習したいと思わない理由

(複数回答:いくつでも)

「学習したいとは思わない」と回答した196人に、学習したいと思わない理由を聞いたところ、「何を学習したらよいかわからない」(20.9%)が2割で最も高く、以下、「仕事が忙しくて時間がない」、「きっかけがつかめない」(ともに13.8%)、「学習するための費用がかかる」(12.2%)が続く。

一方、「特に困っていない(必要がない)」(44.0%)が4割台半ばとなっている。



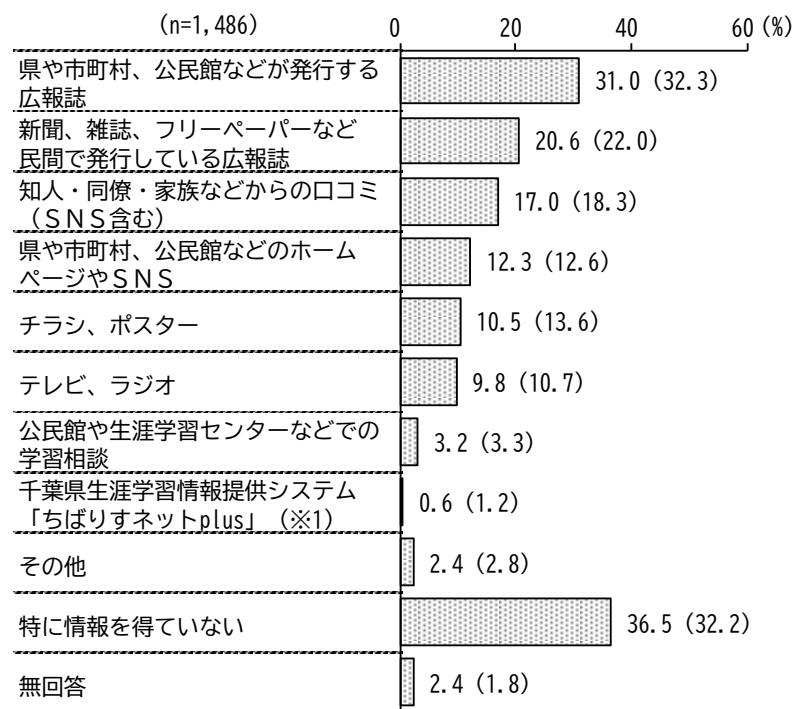
注) () 書きは、令和6年度の調査結果を示している。

(2)生涯学習の情報を得る手段

(複数回答:いくつでも)

生涯学習の情報を得る手段について聞いたところ、「県や市町村、公民館などが発行する広報誌」(31.0%)が3割を超えて最も高く、以下、「新聞、雑誌、フリーペーパーなど民間で発行している広報誌」(20.6%)、「知人・同僚・家族などからの口コミ(SNS含む)」(17.0%)、「県や市町村、公民館などのホームページやSNS」(12.3%)が続く。

一方、「特に情報を得ていない」(36.5%)が3割台半ばとなっている。



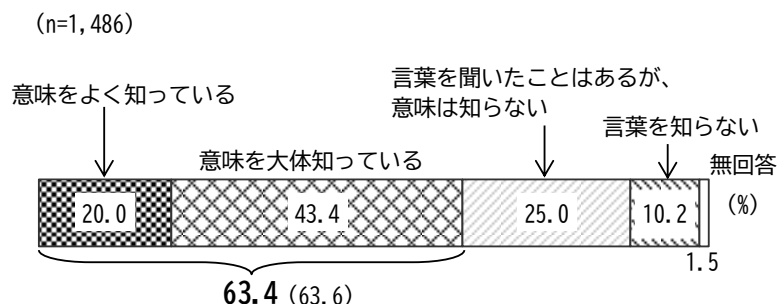
注) () 書きは、令和6年度の調査結果を示している。

(※1) 令和6年度調査では「千葉県生涯学習情報提供システム『ちばりすネット』」

(1)SDGsの言葉の認知度

SDGsの言葉の意味を知っているか聞いたところ、「意味をよく知っている」(20.0%)と「意味を大体知っている」(43.4%)を合わせた『意味を知っている(計)』(63.4%)が6割を超えている。

一方、「言葉を聞いたことはあるが、意味は知らない」(25.0%)が2割台半ば、「言葉を知らない」(10.2%)が1割となっている。

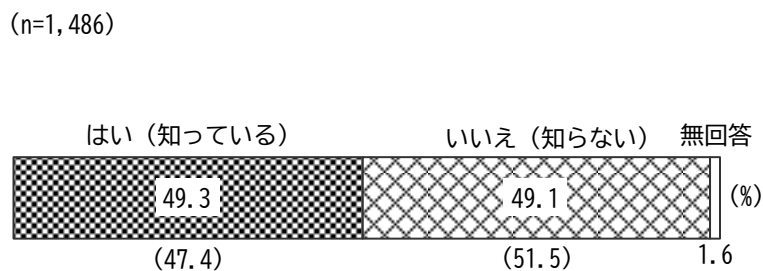


注) () 書きは、令和6年度の調査結果を示している。

(2)「ダイバーシティ」概念の認知度

「ダイバーシティ」という概念を知っているか聞いたところ、『はい(知っている)』(49.3%)が約5割となっている。

一方、『いいえ(知らない)』(49.1%)が約5割となっている。

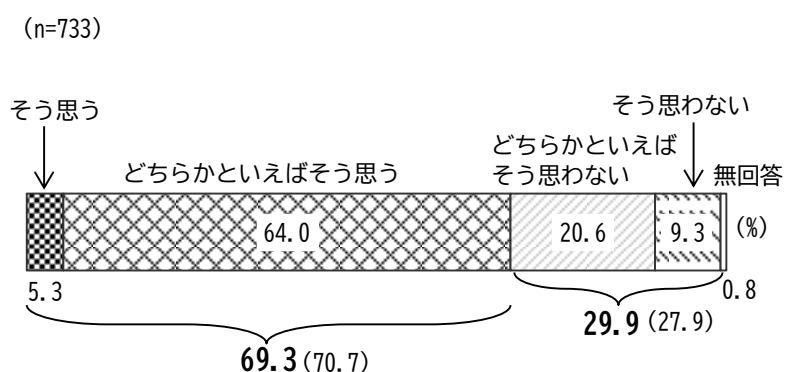


注) () 書きは、令和6年度の調査結果を示している。

(2-1)千葉県における「ダイバーシティ社会」の実現について

ダイバーシティの概念を知っている733人を対象に、千葉県でダイバーシティ社会が実現できているか聞いたところ、「そう思う」(5.3%)と「どちらかといえばそう思う」(64.0%)を合わせた『そう思う(計)』(69.3%)が約7割となっている。

一方、「どちらかといえばそう思わない」(20.6%)と「そう思わない」(9.3%)を合わせた『そう思わない(計)』(29.9%)が約3割となっている。

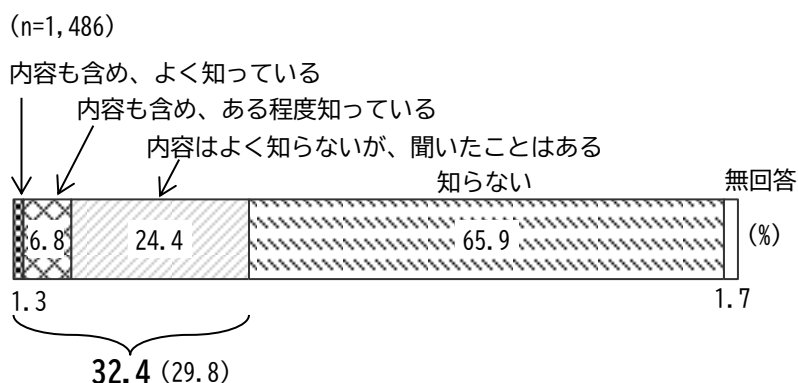


注) () 書きは、令和6年度の調査結果を示している。

(3)「多様性尊重条例」の認知度

「多様性尊重条例」について知っているか聞いたところ、「内容も含め、よく知っている」(1.3%)、「内容も含め、ある程度知っている」(6.8%)、「内容はよく知らないが、聞いたことはある」(24.4%)の3つを合わせた『聞いたことがある(計)』(32.4%)が3割を超えている。

一方、「知らない」(65.9%)が6割台半ばとなっている。



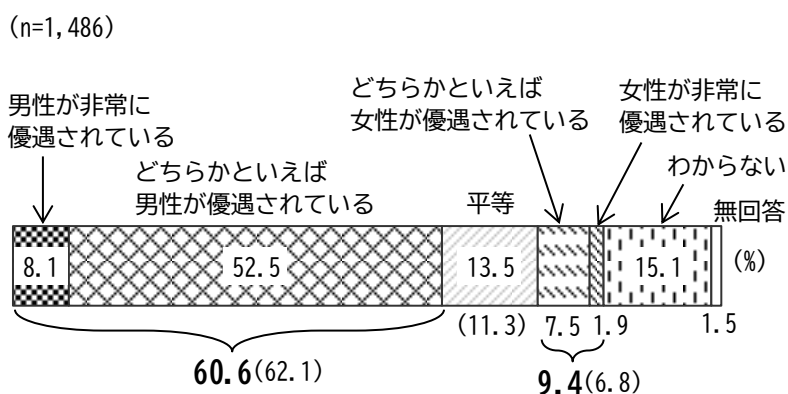
注) () 書きは、令和6年度の調査結果を示している。

(4)社会全体での男女の地位の平等感

社会全体で男女の地位は平等になっていると思うか聞いたところ、「男性が非常に優遇されている」(8.1%)と「どちらかといえば男性が優遇されている」(52.5%)を合わせた『男性が優遇されている(計)』(60.6%)が6割となっている。

一方、「どちらかといえば女性が優遇されている」(7.5%)と「女性が非常に優遇されている」(1.9%)を合わせた『女性が優遇されている(計)』(9.4%)は約1割となっている。

「平等」(13.5%)は1割台半ばとなっている。

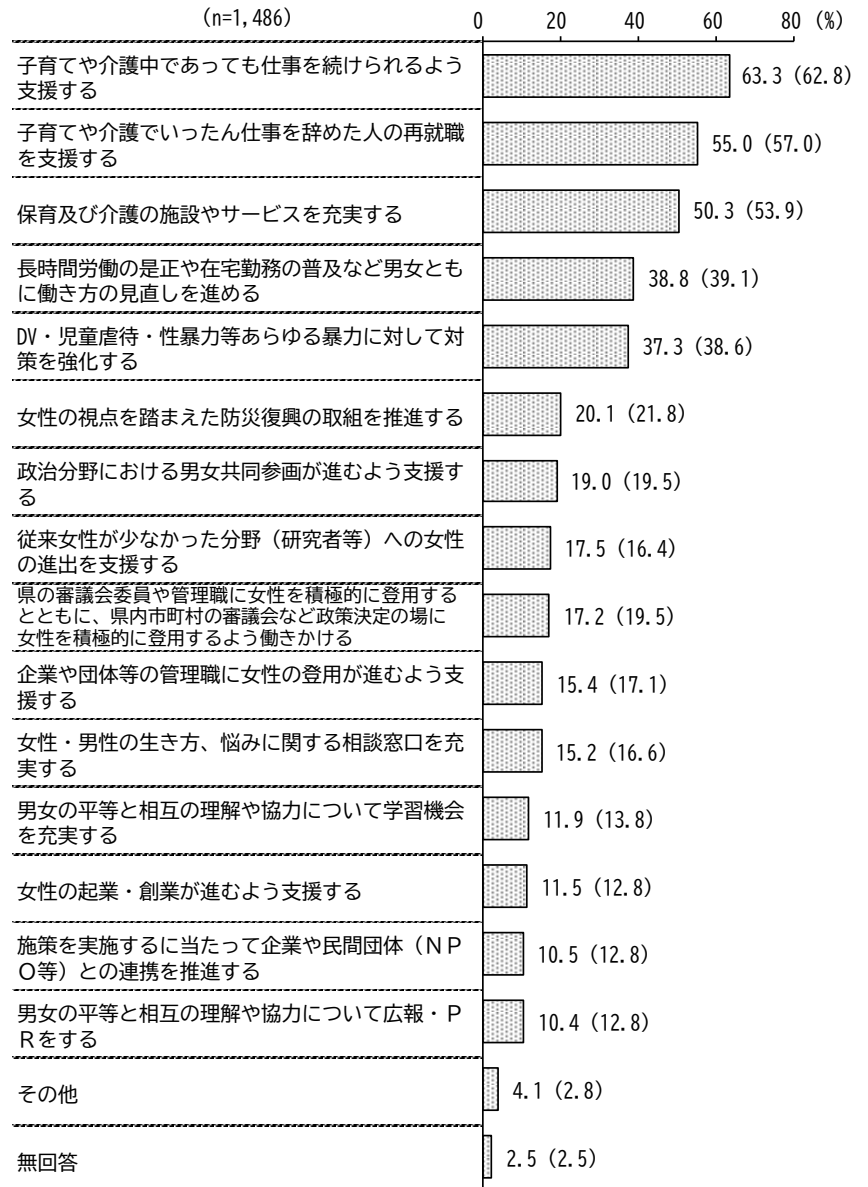


注) () 書きは、令和6年度の調査結果を示している。

(5)男女共同参画社会を実現するための取組

(複数回答:いくつでも)

男女共同参画社会を実現するために今後県が力を入れるべき取組を聞いたところ、「子育てや介護中であっても仕事を続けられるよう支援する」(63.3%)が6割を超えて最も高く、以下、「子育てや介護でいったん仕事を辞めた人の再就職を支援する」(55.0%)、「保育及び介護の施設やサービスを充実する」(50.3%)、「長時間労働の是正や在宅勤務の普及など男女ともに働き方の見直しを進める」(38.8%)が続く。



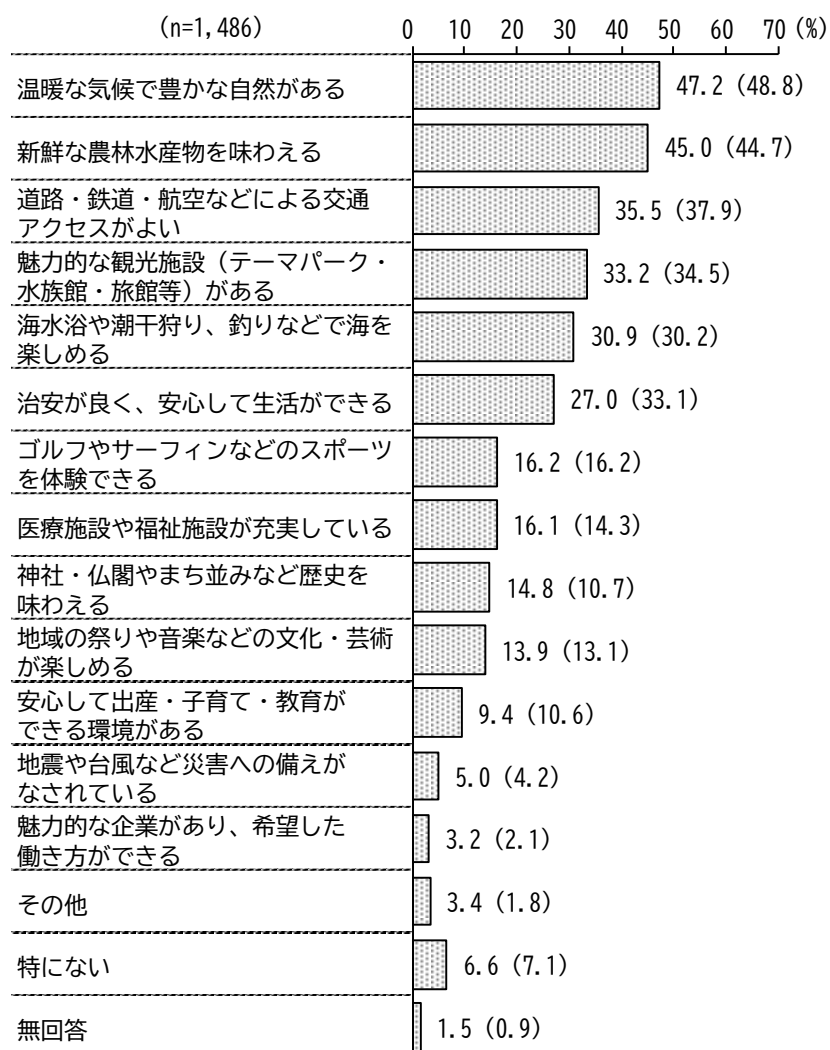
注) () 書きは、令和6年度の調査結果を示している。

10 県の魅力について

(1) 千葉県の魅力

(複数回答:いくつでも)

千葉県の魅力を聞いたところ、「温暖な気候で豊かな自然がある」(47.2%) が約5割で最も高く、以下、「新鮮な農林水産物を味わえる」(45.0%)、「道路・鉄道・航空などによる交通アクセスがよい」(35.5%)、「魅力的な観光施設(テーマパーク・水族館・旅館等)がある」(33.2%)が続く。



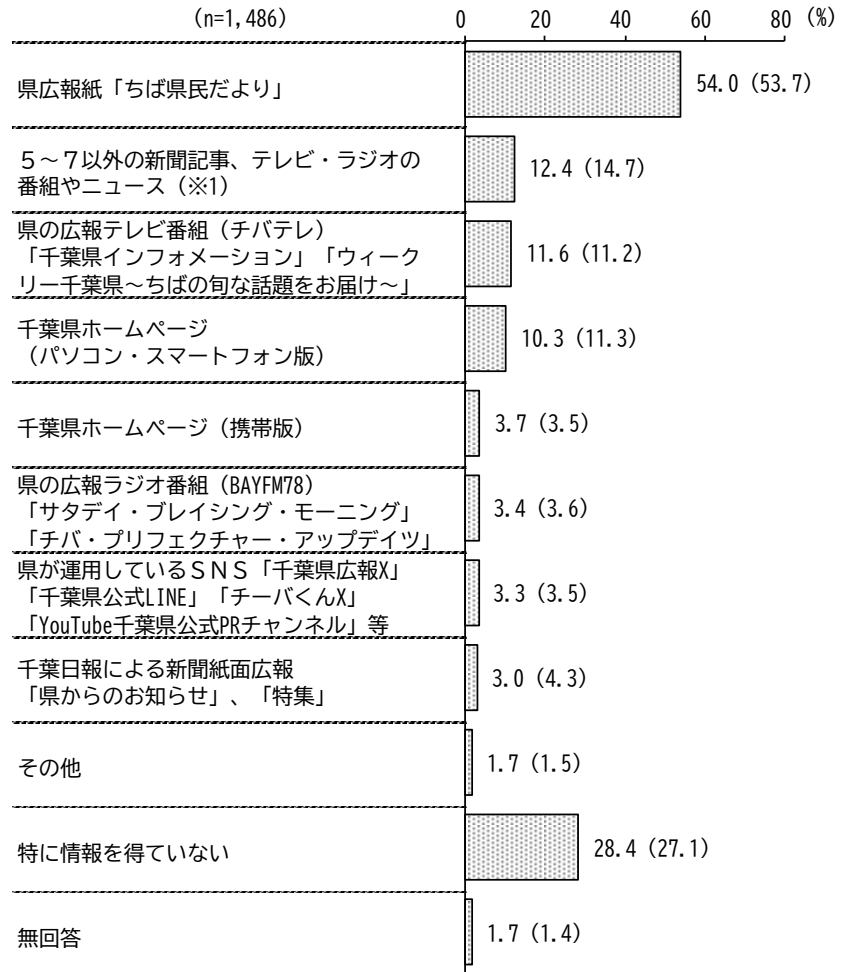
注) () 書きは、令和6年度の調査結果を示している。

(1) 県政に関する情報を得る手段

(複数回答:いくつでも)

県政に関する情報を得る手段を聞いたところ、「県広報紙『ちば県民だより』」(54.0%)が5割台半ばで最も高く、以下、「5～7以外の新聞記事、テレビ・ラジオの番組やニュース」(12.4%)、「県の広報テレビ番組(チバテレ)『千葉県インフォメーション』『ウィークリー千葉県～ちばの旬な話題をお届け～』」(11.6%)、「千葉県ホームページ(パソコン・スマートフォン版)」(10.3%)が続く。

一方、「特に情報を得ていない」(28.4%)は約3割となっている。



注) () 書きは、令和6年度の調査結果を示している。

(※1) 「5～7以外の新聞記事、テレビ・ラジオの番組やニュース」における、5～7とは、「千葉日報による新聞紙面広報『県からのお知らせ』『特集』『県の広報テレビ番組(チバテレ)『千葉県インフォメーション』『ウィークリー千葉県～ちばの旬な話題をお届け～』『県の広報ラジオ番組(BAYFM78)『サタデー・ブレイシング・モーニング』『チバ・プリフェクチャー・アップデート』」を指す。

自由回答(抜粋)

県や世論調査への意見を自由に記述していただいたところ、247人から延べ323件の回答が寄せられた。

記述いただいた内容は多岐に渡り、県政の各施策におおむね沿った形で整理した。意見の多い項目に関して、一部抜粋してご意見を記載した。

■県政全般に関する要望

○性別や国籍を問わず、すべての千葉県民が暮らしやすいと思えるような施策の実施をよろしくお願いいたします。
(男性、20代、葛南地域)

■道路を整備する

○自転車の規制が厳しくなりましたが、自転車で車道を走るのが怖い道が多いです。千葉県は交通事故が多い県ですので、ガードレールを増やして欲しいです。(女性、20代、千葉地域)

■公共交通網（バス・鉄道）を整備する

○千葉市に住んでいて東京へ通勤する身として近年で一番不便になったのは、京葉線の快速が事実上なくなったことです。通勤時間帯に快速がないという点が千葉の住みやすさを半減させていて他県の人に千葉を勧めることが出来ません。(男性、40代、千葉地域)

■県政の情報発信について

○チーバくん・ディズニー・空港・九十九里は有名だが、それ以外他県にあまり知られてないと感じます。千葉県はとても素敵な県なので他県へのアピールに力を入れてほしいです。
(女性、40代、東葛飾地域)

■次世代を担う子どもの育成支援を充実する

○子ども教育支援で高校、大学への支援幅を東京都のように広げて欲しい。
(男性、40代、東葛飾地域)

■学校教育を充実する

○小中学校の環境について、市だけでは格差があるので、県で支援してほしい（エアコンやトイレなどの設備、給食の価格や内容・人員）。
(女性、30代、千葉地域)

■国際交流・協力や外国人県民との共生をすすめる

○千葉県も労働力不足により、海外からの人材確保は避けられない状況かと思いますが、日本で働くにあたり、共生するために最低限、日本の風習やルールを守ってほしいです。入国に際しての基準や期間など設けるなどしてほしいと思います。
(女性、40代、葛南地域)

■犯罪防止対策をすすめる

○近所は老人世帯が多いのですが、皆さん、強盗被害におびえておられます。県でも引き続き対策をお願いします。
(女性、40代、東葛飾地域)

■高齢者の福祉を充実する

○物価がどんどん上がり、高齢者の生活をおびやかしている。安心して暮せる、支援をお願いします。
(女性、60～64歳、千葉地域)

■医療サービス体制を整備する

○医療体制の整備を早急にして頂きたいです。
(女性、75歳以上、千葉地域)

「世論調査」に関する意見を自由に記述していただいたところ、55人から55件の回答が寄せられた。人数・件数には前問の「設問への意見」に記入された世論調査への意見も含む。

これらのご意見から、一部抜粋してご意見を記載するものとする。

◆世論調査について

《世論調査自体への意見》

○日常生活で余り考えずに生活していましたが、いろいろと考える機会になりました。いろいろと知らないこともあり勉強になりました。
(女性、70～74歳、東葛飾地域)

○千葉県にもっと住みやすくなるために提案できるようにしてほしい。このアンケートもたくさんの方に回答してほしいと思いました。
(女性、50代、千葉地域)

○パブリックコメントを積極的に提案するタイプではないので、直接意見表明する機会をいただきましてありがとうございました。
(男性、65～69歳、東葛飾地域)

○県政に関する世論調査がこのような形で行なわれているのは知らなかったです。活動に感謝します。より良い街づくりのため住民の声を大切にしてほしいです。
(女性、50代、東葛飾地域)

○これからも県民の声を聞く機会を増やして下さい。
(男性、65～69歳、千葉地域)

○結果を集計してどこかへ載せてほしい。
(女性、40代、千葉地域)

《調査手法や謝礼への意見》

○ネット回答の場合、回答による分岐が自動で助かった。
(男性、20代、東葛飾地域)

○インターネットでの回答方法が難しく、紙でやることにしました。
(男性、20代、東葛飾地域)

○インターネット・スマホでの回答メインにすれば、紙や集計はいらない。マイナンバーやポータルを上手くつかえば、無作為からアンケートできるのでは？ 謝礼はポイントとか、今回はあえて紙面で回答（せっかく紙があるので）しました。
(男性、50代、山武地域)

○アンケートに結構時間がかかるので、封筒に所要時間を書いて欲しいです。インターネットで回答できるのはありがたいです。
(女性、40代、千葉地域)

○冊子が厚くて折りにくいです。これほど設問、選択肢があるとWebより紙のほうが楽です。
(女性、30代、千葉地域)

○チーバくんのペン嬉しかったです！大切に使います。
(女性、20代、千葉地域)

自由回答(抜粋)

今回のアンケート調査における「設問に関する意見」を自由に記述していただいたところ、208人から42件の回答が寄せられた。「県や世論調査への意見」に記述された意見のうち、「設問への意見」に該当するものもこちらに振り分けている。なお、回答者数より記述件数が少ないのは、その多くが「県や世論調査への意見」に該当するものであったため、そちらに振り分けたことに依るものである。

○県政への要望、どれをとっても大切なことで、同時に力を入れて欲しいと思いました。選ぶのが大変でした。
(女性、60～64歳、千葉地域)

○問50、51（県政への要望）は重要だと思いましたが、選択可能な項目数が少なく意見の実際を反映できなかった。
(女性、65～69歳、葛南地域)

○県政の要望については、どれも力をいれているように思えます。一つ4の「交通事故から県民を守る」に○をつけましたが、これも力をいれていると思います。（男性、50代、葛南地域）

○設問多すぎです。
(男性、30代、千葉地域)

○質問も選択肢も多く、内容が理解しづらいものもあり、回答が苦痛でした。家族に手伝ってもらいました。
(女性、75歳以上、東葛飾地域)

○学生には少し内容が難しいと感じる質問がいくつかありました。（女性、18～19歳、千葉地域）

○千葉県として様々な施策を展開されていることが質問から知ることができましたか、残念ながらそのほとんどが知らないことで、回答出来ませんでした。（男性、70～74歳、葛南地域）

○障害者への対応について、将来の過ごし方の問い合わせ案に対しての設問がなく、残念だ。芸術、文化などが多くて、興味が無いものが多かった。
(女性、50代、山武地域)

○住んでみたい市などを調査したり今住んでいる市への改善点などを調査すると、どこの市が魅力的で改善点が必要なところがどこか分かります。（女性、30代、千葉地域）

○3つまでとかではなく、もっと選ばせて欲しい選択肢が多々ありました。
(性別その他、30代、東葛飾地域)